
ANNUAL REPORT

2014

事業報告書



CITY
UNIV.

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。—都市大グループ

東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

学校法人五島育英会

「都市」で学ぶ。
「人」を育てる。
「未来」を築く。

— 都市大グループ



東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス(工学部/知識工学部/大学院)
横 浜キャンパス(環境学部/メディア情報学部/大学院)
等々力キャンパス(都市生活学部/人間科学部/総合研究所/大学院)
王禅寺キャンパス(原子力研究所)
二子玉川夢キャンパス

東京都市大学 附属中学校・高等学校

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

東京都市大学 塩尻高等学校

東京都市大学 附属小学校

東京都市大学 二子幼稚園

東急自動車学校

発行にあたって

学校法人五島育英会は、1955年、東急グループの礎を築いた五島慶太を初代理事長として設立した学校法人です。大学1校、高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園および自動車学校1校を設置しており、2009年4月、大学から幼稚園までを「東京都市大学グループ(都市大グループ)」として新たなスタートを切りました。院生から園児まで約1万2千人を擁し、首都東京を拠点とする総合学園として、社会の要請に応える人材を育成し続けています。

本法人では、すべてのステークホルダーの皆様には様々な取り組みや各学校の現況をお伝えすることが責務であると考え、「事業報告書」を発行しております。本報告書をご一読いただき、学校法人五島育英会と設置するすべての学校について理解と信頼を深めていただきますようお願い申し上げます。

東京都市大学グループ学園歌

五島育英会のウェブサイトにて試聴いただけます ● http://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/song_of_tcu_group.html

夢に翼を

作詞・作曲/岩代浩一
編曲/岩代太郎

| | | |
|--|---|---|
| 1. まなびや 学園の道の 陽を浴びて 精気さやかな 都市に起つ 未来をみざす 心意気 不滅の精神を学ぶなり 香る個性の煌きに あす 明日の英知を磨き合う もろて 双手に燃える青春の 夢に翼を 夢に翼を | 2. まなびや 学園の大地に 風わたり てんくうそうき 天空蒼々と 冴えるとき あうん いぶき とも 阿吽の息吹 朋友の声 讃歌たからかに ひびくなり 若き生命の羽ばたきに あす 明日の希望を語り合う 力あふれる青春の 夢に翼を 夢に翼を | 3. まなびや つど 学園の森に 集い来て こずえ き こだち 梢すどく 指す木立 あおぞら 遙かに仰ぐ 大宙の 北斗に真理の光あり つたえ ぬく 古き伝統の温もりを あす 明日に生かして励み合う 血潮みなぎる青春の 夢に翼を 夢に翼を |
|--|---|---|

作詞・作曲 岩代浩一先生からのメッセージ

たとえ老人になっても、夢に生きている人は新鮮に輝いています。本当の「老(おい)」は夢が失くなってしまった時と言えましょう。憶えば子供の頃は、些細なことでも新鮮な出来事に出会うと、ドキッと反応して感動したものでした。だから、「子供ごころ」は何時も夢でイッパイでした。少年期から青春時代にかけての夢になると、将来への希望が多くなってきます。「夢多き時代」には若い命が運しく息吹

き、夢を見るほどに血潮が滾ってきます。しかし夢は必ずしも実現するとは限りません。いや、むしろ叶わぬ夢の方がずっと多いでしょう。夢を実現する為には、ただ憧れているだけでなく、強い翼を育てることが肝要です。夢の翼は、個性であり、創造への英知であり、ロマンへの情熱であり、未来へ飛翔する不滅の力(真の勇氣)です。本当の夢は目を覚ましてみるもの。夢に翼を!

目次

| | |
|--|--------------------------|
| 03 …… 理事長メッセージ | 29 …… 教育関連データ |
| 05 …… [特集1] グループの進化とチャレンジ | 31 …… 2015年度の事業計画、各種奨学制度 |
| 07 …… [特集2] グローバル化へのアプローチ | 33 …… 組織図、役員・評議員一覧 |
| 09 …… 設置校の概要(東京都市大学、附属中学校・高等学校、等々力中学校・高等学校、塩尻高等学校、附属小学校、二子幼稚園) | 35 …… 学校法人五島育英会の概要 |
| 23 …… 財務、財務概要、5年間の財務データ(推移)、財産目録 | 37 …… 事業活動、教育関連施設 |



学校法人五島育英会 理事長 安達 功

着実に学校改革を推進する
東京都市大学および付属校

2014年度事業報告書の発行にあたり、学校法人五島育英会を代表してご挨拶申し上げます。

2009年4月に東京都市大学グループが新たにスタートして6年が経過しました。少子高齢化、情報の高度化、グローバル化など学校教育を取り巻く状況は急速に変化しているものの、この間グループ各校においては、学校改革を着実に推進し、入試、進学、就職な

どの実績も堅調に推移しています。

東京都市大学では、2015年1月、三木千壽氏が学長に就任しました。三木新学長は、その豊富な経験と幅広い識見を活かし、中長期計画「東京都市大学アクションプラン2030」を推進し国際標準の大学へと進化すべく諸課題に取り組んでいます。

大学創立90周年、100周年を見据えて策定した当プランは、2014年度にスタートしました。教育プログラムの充実、グローバル化への対応、学長

ガバナンスの確立などを中心に各施策を進めています。

付属各校においても着実に改革が進んでいます。

付属中学校・高等学校および等々力中学校・高等学校は、中高6年間の教育を、計画的、効率的に行えるよう、併設型中高一貫校に移行しました。

付属中学校・高等学校では、5年連続で都内私立中学における入学志願者数トップを達成するとともに、大学進学実績においても着実に成果を上げています。



等々力中学校・高等学校では、生徒の能動的学習を促進するため、双方向型授業の一つ「知識型ジグソー法」を用いた授業に取り組みました。また進学面では独自の学習システムにより難関大学への合格者が大幅に増えています。

塩尻高等学校では、普通科コース制への再編を軸とした教育システムの構築とともに、2014年9月には新校舎と新体育館が完成し、学習環境が格段に向上しました。

付属小学校では、シェフ三國清三氏による食育プログラムなど幅広い体験学習を継続し、さらに、スマートボード(電子黒板)を用いたインタラクティブな授業を低学年から実施しています。

二子幼稚園では、グループ各校との連携による科学体験教室等を実施し、子供たちの興味・関心を育むための教育を継続しています。

高大接続の一環として、付属3高校の生徒が東京都市大学の講義を受講する「単位認定制度」を設けており、さらに塩尻高等学校では、ICTを用い、大学で開講される授業を同時双方向に活用しています。

中長期計画を具現化し
国際化戦略に取り組む

2015年度は「東京都市大学アクションプラン2030」の具現化に継続して取り組んでいきます。そのための専任組織として東京都市大学に大学戦略室を設置し、ビジョン達成に向けた事業計画を実行します。

また、6月に開設した東京都市大学二子玉川夢キャンパスを拠点とした新事業や、主体的な学習を促すためのラーニングコモンズ設置、学生チューター制の導入など、さらなる取り組みを進めています。

もう一つの大きな柱となる国際化戦略では、実践的な専門力を有した国際人を育成するため、その第1段階として「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」を2015年4月にスタートしました。これは東京都市大学が掲げるグローバル人材育成プランの一つです。年間200名の学生が国内での準備教育を経て、西オーストラリア州パースにあるエディスコワン大学に約5カ月間留学するプログラムで、定員を上回る学生の応募がありました。

また、付属中学校では、



2014年度には帰国生入試を、2015年度には英語科目を必須としたグローバル入試を取り入れたほか、国際理解教育を推進しています。

等々力中学校・高等学校では、2014年8月にオーストラリアでの最先端科学研修を実施。2015年度は中学1年生を対象に、高校1年次に1年間海外留学を経験する「GL・留学プログラム」を開始し、海外大学への進学を希望する生徒へのサポートやTOEIC®等のスコアアップを目指します。

国際化については、各校個別のプログラムだけでなく、グループ全体の重点テーマとして捉え、推進していきます。

世の中の流れは非常に早く、それに伍していくにはスピーディーな事業推進を図ることが求められます。そのためにも、各校の有する利点、長所を組み合わせ、さらなるシナジー効果を創出し、グループ全体の持続的な成長につなげていくことが必要です。本年度を「新たな次元での飛躍を確信する年」とすべく、全教職員が主体的に取り組み、学生や生徒、保護者の皆様をはじめ、社会の要請に応えるためにチャレンジしていきます。

本事業報告書を通し、本法人が設置する各校の現状と展望をご理解いただきますとともに、倍旧のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

グループの進化とチャレンジ

東京都市大学グループの原点



五島慶太 初代理事長

本法人の初代理事長である五島慶太先生は、目黒蒲田電鉄（東京急行電鉄の前身）を創業し、東急グループの礎を築く一方、国の繁栄と産業発展のため、教育事業の推進に尽力しました。1929年、東京都市大学の前身である武蔵高等工科学校を創立し、武蔵工業大学に発展させた西村有作氏より学校経営を引き受け、当時、五島先生が学校運営に携わっていた東横学園と統合することによって、1955年に学校法人五島育英会を設立しました。

人づくりの原点は教育にありとしていた五島先生の悲願が、大学を頂点とする総合学園化です。都市大グループは五島先生の教育と研究に対する熱い思いを継承し、未来を担う人材を育成し続けています。

東京都市大学グループの理念と目標

— 進化とチャレンジの精神 —

都市大グループの使命は、単に知識や技術の修得だけでなく、優れた感性と品性を備え、世界から待望される有為な人材を育て上げていくことです。本グループは、それぞれの学校がこれまで培ってきた歴史と伝統を生かしながら、それらを融合することによって得られる学園全体の総合力を最大限に発揮できるよう、グループの理念と目標を設定しています。通底するのは、未来に向かって着実に進化し、つねにチャレンジする精神です。

教育理念

健全な精神と豊かな教養を培い
未来を見つめた人材を
育成します

教育目標

国際的な視野と情報活用能力を身につけ
健全な精神と豊かな教養をもって、
国際社会で活躍する有為な人材を育成します

グループビジョン

都市大グループは、
未知の世界を切り開き、
未来に向かって挑戦します

東京都市大学アクションプラン2030

東京都市大学は2019年に創立90周年、2029年に100周年を迎えます。今後より厳しくなる日本の教育機関を取り巻く社会環境に備え、2013年度、本学の持続的発展に向けた将来ビジョン「東京都市大学アクションプラン2030」を策定しました。

2014年度にもすでに4つのプロジェクトによる16施策において、69事業が実行され、2030年に向けて次々とプランが実現しています。将来ビジョン達成に向け、全教職員が力を結集させて計画的に改革を推進し、その成果をもって社会に貢献してまいります。

2013年度策定

ビジョン達成に向けた4つのプロジェクト

① 教育の質保証プロジェクト

- ・都市大教育理念に則った教育プログラムの確立
- ・教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築
- ・グローバル化に対応した人材の育成
- ・研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成

② キャンパス教育環境向上プロジェクト

- ・施設の長寿命化および更新（アメニティ空間の改善）
- ・グローバル化に対応する施設
- ・良質な学修環境

③ ブランド力向上プロジェクト

- ・広報力の強化によるブランド力
- ・国際化の推進によるブランド力
- ・産学協働体制の構築によるブランド力
- ・創立記念事業によるブランド力
- ・東京オリンピック開催に合わせた“都市大”ブランド力の向上戦略

④ 大学運営向上プロジェクト

- ・中長期計画に基づくPDCAサイクルの確立と評価
- ・大学のガバナンス強化
- ・時代の変化に対応した大学運営組織
- ・収支に立脚した財務基盤の確立

2014年度実行

主な事業の進捗状況

① 教育の質保証プロジェクト

- 3ポリシーの体系化
アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを全学部・全学科・全専攻で体系的に整理し、大学全体として統一。
- 教育プログラムの強化
全学部・専攻・部門による、外部指標に基づくセルフチェックの実施等、PDCAサイクルを確立。
- グローバル化への対応
東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)実施に向け、留学前後を含めた全体のカリキュラムを策定。

② キャンパス教育環境向上プロジェクト

- ICT基盤構築に向けた取り組み
東京都市大学グループ全体のICT基盤構築に向けたロードマップを策定。
- ラーニング commons の設置
学生の主体的な学習活動の支援や多様な学習スタイルに対応するための学習エリアを世田谷キャンパス図書館に設置。
- 歴史展示コーナーの設置
自校教育の一環として、大学設立の経緯や沿革、五島慶太先生の功績等を紹介した展示施設を五島記念館(3号館)に設置。



ラーニング commons の設置

創立90周年
(2019年)

創立100周年
(2029年)

2020年度目標

③ ブランド力向上プロジェクト

- 日本科学未来館との包括連携協定を締結。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結。
- 地域社会の持続的な発展に資することを目的として、世田谷区と包括協定を締結。
- 「二子玉川夢キャンパス」の開設および「渋谷サテライトクラス」の拡充に向けた準備。
- 長野県上田市においてシンポジウムを開催（ノーベル化学賞受賞者・白川英樹先生、理化学研究所名誉研究員・丸山瑛一先生）。
- 卒業生向けの大学広報誌の創刊。

④ 大学運営向上プロジェクト

- マネジメントシステムの確立
大学戦略室を設置し、アクションプランに基づく4つの事業の実施、進捗管理、検証のPDCAサイクルを確立、事業の点検・評価を実施。
- 学長ガバナンスの確立
学校教育法の改正主旨に則り、学則等関連規程を改正し、大学における意思決定プロセスを明確化。
- 全学教職員意見交換会の開催
アクションプラン2030の意義、ビジョン達成に向けた戦略・諸施策およびKPI(重要業績評価指標)等についての説明と意見交換会を開催。

2030年度目標

持続的発展に向けた将来ビジョン

目指す大学像 VISION

国際都市東京で
存在感を示す
有数の私大



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会
大学連携協定を締結

詳しくはホームページへ [アクションプラン2030](#) [検索](#)

グローバル化へのアプローチ

東京都市大学 オーストラリアプログラム (TAP)

TAPは東京都市大学が推し進めるグローバル人材育成プランの一つとして、2015年度の入学生から始まった留学プログラムです。1年次に語学力強化と異文化理解のための準備教育を実施し、2年次に西オーストラリア州の国際都市、パースに位置するエディスコワン大学 (ECU) にて、年間200名の学生が約5カ月間の留学を体験します。

質の高い準備教育とECUでの充実した教育内容により、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った、時代に柔軟に対応できる国際人を育成します。



エディスコワン大学

パース風景 (キングスパークより)



留学先は西オーストラリア州・パース。豊かな自然と現代的な景観が調和し、日本人にも暮らしやすい街です。



【協力】エディスコワン大学



【後援】西オーストラリア州政府



1年次

留学準備
入学後の5月から、留学に向けての準備がスタート。ネイティブスピーカーによるレッスンを全100日間受け、留学中、英語で講義が受けられる語学力を身につけます。レッスンは、昼休みと放課後に設定されています。

2年次

オーストラリア留学
5カ月間のオーストラリア留学を体験。現地では、英語科目と教養科目の講義を受け、学生寮で生活し、世界を肌で感じます。帰国後は各学部のカリキュラムを再開します。

3年次

海外フィールドワークなどに参加
専門の学習・研究に直結した実践的なプログラムとして国内外の大学や研究機関と共同で多くの海外フィールドワークを実施。また、グローバル化が進む社会で活躍する力を実践を通して身につける海外でのインターンシッププログラムも充実しています。

4年次

卒業研究に集中
留学経験のある指導教授からの指導を受けたり、留学生とともに研究に取り組むことにより、国際的な視点を身につけます。

TAP参加者への様々な経済支援

1 参加費用の一部補助制度

TAP参加者全員を対象に、準備教育費用、寮費、航空運賃、保険、ビザ取得費用など一部の費用を補助。学生の参加費用 (負担金額) は90万円です (2015年6月現在)。

2 TAP奨学生制度

一般入試 (前期) の結果により参加費用が免除となる「TAP奨学生」。TAP奨学生として入学すると、参加費用が全額免除となります。

3 五島育英会「夢に翼を奨学金」

留学中の成績や留学前後のTOEIC®の点数など、優秀な成果に「TAPアワード」として奨学金を支給。また、参加者全員を対象したLBAサポートもあります。

[TAPアワード] 参加人数の上位20%の学生に15~30万円を給費
[LBAサポート] 参加者全員を対象に、留学中の英語を用いた自発的取り組みに給費
※詳細は本学ホームページをご覧ください。

世界各国でフィールドワーク研修を実施

グローバルに活躍できる人材を育成するため、国内外の大学や研究機関と共同しながら、世界各地で数多くのフィールドワークを行っています。その一つ、『スコットランド地質見学』では、雄大な氷河地形を前に、地質学の歴史や、数十億年にわたる大陸移動と地球の変動を実地で学びます。異文化とふれ合い、専門知識を磨き、同時に語学力も鍛える海外フィールドワーク。そこには本学の優れた教育が体现されています。



専門知識と語学力を同時に磨きます

【東京都市大学付属中学校・高等学校】

グローバル人材を育成するための施策を多方面で推進

中学3年生と高校1年生の生徒60名が、2014年8月の約3週間、ニュージーランド語学研修に参加しました。生徒たちはホームステイをしながら現地の学校に通学し、外国人留学生を対象とした英語の授業を受講。「パティ」と呼ばれる現地の生徒が付き添い、授業だけでなく現地の小学校訪問やお菓子づくりなど、様々な経験を共にしました。参加者からは「一生の思い出になった」との声が聞かれました。2014年度には4つの現地校と姉妹校提携を結び、将来的に現地校からの訪問も受け入れていくことで、双方向の交流が深められていく予定です。

2015年度入試では、帰国生入試に加え、英語を必須の試験科目とした「グローバル入試」を新設。地球規模で物事を考え、国際社会で活躍できるリーダーの育成を目指します。



ニュージーランドのお菓子づくりなどの体験を通して「パティ」ともうちとけていきます

【東京都市大学等々力中学校・高等学校】

「オーストラリア最先端科学研修」で世界最先端の学術研究を体験

2014年8月3日から13日の11日間、オーストラリア・ゴールドコーストで最先端科学研修が実施され、13名の生徒が参加しました。等々力中学校・高等学校の提携校である州立健康科学アカデミー (IB認定校) を訪問する本研修は、理系、医系大学への進学を目指す生徒の意欲向上のために始動した「進路探究型海外研修」です。

生徒たちはアカデミーの生徒の家庭にホームステイをしながら、アカデミーの通常授業に参加。隣接するグリフィス大学医学部・薬学部キャンパスの研究室訪問や、医療技術研究機関TRIの実験室での遺伝子組み換え技術の手法体験、最先端医学の成果についての講義など、世界最先端の学術研究に携わる人々と交流し、充実した時間を過ごしました。



遺伝子工学の実験をする生徒たち

【東京都市大学塩尻高等学校】

ネイティブと接し語学力を養成する国際プログラム

塩尻高等学校では、グローバル化が進む社会で活躍できる人材を育成するために、国際教育に力を入れています。2013年度から取り入れた「イングリッシュシャワー」は2014年度も継続しました。昼食時に、学校に在籍しているネイティブスピーカーと生徒たちが英会話を楽しんでいます。さらに2014年度からは福島県にあるブリティッシュヒルズでの「イングリッシュキャンプ」を実施しました。13名が参加し、英語漬けの日々を過ごしました。今後はフィリピン・セブ島への語学研修や放課後に英会話教室を開くなど、グローバル教育をさらに推進していきます。



校内にしながら英語漬けの時間を過ごす「イングリッシュシャワー」

【東京都市大学付属小学校】

ネイティブスピーカーの英語学習

2014年度からネイティブスピーカーを常勤とし、ネイティブを含む3人の英語教員による体制を整備しました。歌やゲームを交え楽しみながら英語を学びます。4年生からは1クラス2展開による少人数授業を行うほか、福島県のブリティッシュヒルズで3泊4日の異文化体験および英語実践学習など、グローバル人材育成に資するよう取り組みます。



チームティーチングによる英語学習

【東京都市大学二子幼稚園】

国旗づくりを通じた多文化理解

2013年度から多文化に触れる活動を取り入れています。2014年度から国旗や民族衣装を活用したあそびを実践しました。また2014年度には年長組の卒園制作として掲示板づくりに取り組みました。様々な国旗等を描き完成させたものを卒園のお別れ会で年少、年中組に披露しました。幼児期から他国の文化に親しむことで、自然に多文化を受け入れる様子が見られるようになりました。



各国の国旗が並ぶ遊戯室

学校間の連携を活かした教育を実践

東京都市大学



■教職員数 774名
 ■学生数 7,796名(大学7,231名、大学院565名)
 ■開設年 1929(昭和4)年
 ■所在地
 (世田谷キャンパス)
 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1
 TEL.03-5707-0104
 (横浜キャンパス)
 〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1
 TEL.045-910-0104
 (等々力キャンパス)
 〒158-8586 東京都世田谷区等々力8-9-18
 TEL.03-5760-0104

**東京都市大学
附属中学校・高等学校**



■教職員数 123名
 ■生徒数 1,566名(中学校829名、高等学校737名)
 ■開設年 中学校1956(昭和31)年
 高等学校1951(昭和26)年
 ■所在地
 〒157-8560
 東京都世田谷区成城1-13-1
 TEL.03-3415-0104

**東京都市大学
等々力中学校・高等学校**



■教職員数 100名
 ■生徒数 1,049名(中学校519名、高等学校530名)
 ■開設年 中学校1947(昭和22)年
 高等学校1948(昭和23)年
 ■所在地
 〒158-0082
 東京都世田谷区等々力8-10-1
 TEL.03-5962-0104

**東京都市大学
塩尻高等学校**



■教職員数 70名
 ■生徒数 785名
 ■開設年 1956(昭和31)年
 ■所在地
 〒399-0703
 長野県塩尻市広丘高出2081
 TEL.0263-88-0104

**東京都市大学
附属小学校**



■教職員数 33名
 ■児童数 478名
 ■開設年 1956(昭和31)年
 ■所在地
 〒157-0066
 東京都世田谷区成城1-12-1
 TEL.03-3417-0104

**東京都市大学
二子幼稚園**



■教職員数 14名
 ■園児数 208名
 ■開設年 1955(昭和30)年
 ■所在地
 〒158-0094
 東京都世田谷区玉川2-17-10
 TEL.03-3708-0104

※教職員数、学生・生徒・児童・園児数は2015(平成27)年5月1日現在 ※教職員数は非常勤教職員を含む

【東京都市大学 × 東京都市大学二子幼稚園】

学生サポーターが幼稚園の行事を支援

2014年度も「幼大連携」事業に取り組みました。保育士、幼稚園教諭を目指す東京都市大学人間科学部の2~4年生が「学生サポーター」を組織。運動会や芋掘りなど二子幼稚園の年間9つの行事と、その準備や後片付けを合わせて21回のイベント支援に参加する「実習型連携」です。参加学生は、より実践的なキャリア教育の機会が得られる場です。また、幼稚園にとっては、専門的に幼児教育を学ぶ学生と一緒に新しい発見や工夫をしていくことができるため、双方にとって有意義な機会となっています。



二子幼稚園の芋掘りを手伝う学生サポーター

【東京都市大学等々力中学校・高等学校 × 東京都市大学二子幼稚園】

等々力中学校・高等学校の生徒が幼稚園で科学体験教室を実施

2015年3月9日、等々力中学校・高等学校の教員と理科部の生徒が講師となり、二子幼稚園で「科学体験教室」を開催しました。今回は年中組の園児を対象に「種コプター」と「草木染め」をテーマにした科学実験を実施。「種コプター」の実験では、植物の種が飛んで運ばれる仕組みを、紙で作った「種コプター」で種を飛ばして学びました。「草木染め」の実験では、玉ねぎの皮から色を煮出して布を染め、輪ゴムとビー玉を使って白抜きのきれいな模様ができあがりました。園児だけではなく、等々力中学校・高等学校の生徒にとっても貴重な体験の場となっています。



「草木染め」の実験では玉ねぎの皮から色を煮出して布を染めました

【東京都市大学 × 東京都市大学塩尻高等学校】

大学教授を招いて「市民公開講座」を開催

塩尻高等学校では、9月14日と10月4日に東京都市大学の教授を招き、「市民公開講座」を開催しました。第1回は環境学部の涌井史郎教授が「木育時代」をテーマに講演。第2回は、佐々木進教授が「宇宙開発にかけたる夢」をテーマに行いました。2日間とも多くの方が来場し、「今後も続けて欲しい」という声が多数寄せられました。

この講座は大学の最先端研究・技術や社会貢献の取り組みを、塩尻市および近隣の皆様に広く理解していただくことを目的に開催しています。また、東京都市大学へ進学を希望する生徒への受講を促し、大学での研究や学習への知的意欲向上も図っています。



東京都市大学の最先端研究・技術や社会貢献の取り組みを紹介する「市民公開講座」

【東京都市大学 × 東急自動車学校】

中高生による電気自動車コンテスト「都市大エコ1チャレンジカップ」

2014年8月23日、東急自動車学校で「都市大エコ1チャレンジカップ2014~中・高校生による手作り電気自動車コンテスト~」を開催しました。この大会は「未来へ続くスマートドライブ」をテーマとし、中高生を対象にもものづくりの楽しさや環境・エネルギー問題の認識を深め、創造性に富む人材育成を目指して行っています。2014年度大会は、1都6県から16校18チームが参戦。コース10周のタイムと車体のデザイン性によって競われ、茨城県立波崎高等学校が優勝しました。デザインにこだわったチームや女子校、また、附属中学校・高等学校の自動車部からの参加もあり、充実した大会となりました。



タイムと車体のデザイン性を競う「都市大エコ1チャレンジカップ」



“教育”と“研究”をさらに充実させ 国際標準の大学への進化を目指す

三木 千壽 学長

2014年度は、中長期計画「東京都市大学アクションプラン2030」に基づき、様々な取り組みをスタートしました。このプランの大きな目標の一つが「2030年までに本学を世界大学ランキング300位以内とすること」です。それを実現するため、新しい制度の導入やカリキュラムの再構築など教育プログラムを見直し整備しました。今後は教育と研究をさらに充実させ、世界で活躍できるグローバル人材を育成していきます。

“世界300位以内”を掲げ アクションプランが始動

本学では、2019年の90周年と2029年の100周年を見据え、2014年3月に中長期計画「東京都市大学アクションプラン2030」を策定しました。そして2030年までに達成すべき大きな目標として「世界大学ランキング300位以内を目指すこと」を掲げ、「教育の質保証」「キャンパス教育環境向上」「ブランド力向上」「大学運営向上」という4つのプロジェクトを設定。2014年度からは教育と研究の両面で国際標準の大学に進化するため、アクションプランに基づき全教職員が心を一つにして改革を進めています。

厳しい就職環境のなか 2014年度も高い内定率を維持

2015年度募集の学部入試は、志願者数1万7,214名。2014年度に比べて全学部の志願者数は微減となりましたが、都市生活学部と人間科学部では増



学生生活を通して高い就業力を養成

加しました。

2014年度卒業生の就職状況は、2013年度に引き続き高い就職率を維持しました。工学部97.8%、知識工学部98.2%、環境情報学部96.1%、都市生活学部99.3%、人間科学部100%で、理系と文系どちらの学部も高い数値を達成しました。本学は80年以上にわたり日本の産業界を支えた実績と、きめ細やかな就職・キャリア支援により、「就職に強い大学」として評価を得ています。今後も学生の多彩な可能性を見出し、国際社会で活躍できるよう人材育成に取り組んでまいります。

「TAP」で年間200名が オーストラリアに留学

グローバル人材育成や国際化に向け、学内で様々なプログラムを導入しています。特に力を入れて準備を進めてきたのが、2015年度入学生から導入した「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」です。オーストラリアのバースにあるエディスコーワン大学(ECU)と提携したプログラムで、毎年約200名の在学学生を送り出していきます。

参加する学生は、1年次に1日2時間の週5日、トータル100日間英語力を強化する教育を受けます。その後、2年次にECUに約5カ月間留学。前半は英語力を集中的に鍛え、後半は教養科目を学びま



オーストラリアのエディスコーワン大学で約5カ月間学ぶTAP

す。留学期間中はECUの学生寮に入り、世界各国から集まった学生たちと共同生活を送ります。カリキュラムは本学とECUが共同で考案し、一部の科目では双方の学生と一緒に受講する予定です。

学生たちには、このプログラムで英語によるコミュニケーション力を養い、教養科目を学ぶことで、グローバルなマインドを身につけ、成長することを期待しています。さらに今後はTAP以外の海外留学など、全ての学生が卒業するまでに一度は留学を経験する環境を整えていきたいと考えています。

カリキュラムを再構築し 基礎学力の教育を強化

グローバル人材は、英語が話せるだけでなく、中身がともなっていないとなりません。そのためには教養や専門教育も大切。本学には「専門的実践教育」という伝統があり、基礎学力を養う教育も強みの一つです。2014年度は、それをさらに強化するためプログラムや制度を見直しました。

学部学科・大学院研究科構成

| 学部 | 学科 | 大学院研究科 | 専攻 |
|--------------|----------|----------|------------|
| 世田谷 キャンパス | 工学部 | 工学研究科 | 機械工学専攻 |
| | 知識工学部 | | 機械システム工学専攻 |
| 横浜 キャンパス | 環境学部 | 環境情報学研究科 | 電気電子工学専攻 |
| | メディア情報学部 | | 生体医学専攻 |
| 等々力 キャンパス | 都市生活学部 | 環境情報学専攻 | 情報工学専攻 |
| | 人間科学部 | | 建築学専攻 |
| | | | 都市工学専攻 |
| | | | システム情報工学専攻 |
| | | | エネルギー化学専攻 |
| | | | 共同原子力専攻* |
| | | | 都市生活学専攻 |

※2013年4月、「環境情報学部」は「環境学部」と「メディア情報学部」に改組

※早稲田大学院との共同教育課程制度による専攻

海外協定校

オレゴン工科大学(アメリカ)
北京建築工程学院(中国)
スロバキア工科大学(スロバキア)
パデュー大学(アメリカ)
南台科技大学(台湾)
武漢大学(中国)
サストラ大学(インド)
ソフィア工科大学(ブルガリア)
北京林業大学(中国)
カンタベリー大学(ニュージーランド)
カーティン大学(オーストラリア)
トリバン大学(ネパール) [環境学部・メディア情報学部]
エディスコーワン大学(オーストラリア)
タマサート大学(タイ)
ウーロンゴン大学(オーストラリア)

外国人留学生の出身国・地域別人数

| 国籍・地域 | 学部 | 研究科 | 合計 |
|-------------|----|-----|----|
| 中華人民共和国 | 54 | 11 | 65 |
| 大韓民国 | 7 | 0 | 7 |
| 台湾 | 1 | 1 | 2 |
| ベトナム社会主義共和国 | 2 | 0 | 2 |
| タイ王国 | 2 | 0 | 2 |
| ネパール連邦民主共和国 | 1 | 0 | 1 |
| イラン・イスラム共和国 | 0 | 1 | 1 |
| サウジアラビア王国 | 0 | 1 | 1 |
| セネガル共和国 | 1 | 0 | 1 |
| オーストラリア連邦 | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 68 | 15 | 83 |

(単位:人)
2015年5月1日現在

その一つとして半期の履修上限を設けるCAP制を全学で導入し、学習負担を軽減させるためにカリキュラムをスリム化。さらにクォーター制の導入を見据え、2015年度からは1コマ90分の授業を100分にし、各学期を15週から14週に変更しました。今後も教育目標に応じたカリキュラムを構築していきます。

より良い教育を行うため 研究環境を充実させる

国際標準の大学に進化することを目指すには、大学院教育の充実が必要で

す。国公立大学の理工系学部では9割以上の学生が大学院に進学している学校もあります。理工系では高い専門性と技術開発力を社会で生かす機会が増えることから、本学も大学院進学率の向上を図っています。

また、研究実施体制および研究環境の改善も急務です。世界的な評価を受けるには、研究活動に不可欠な外部資金と研究論文が重要です。本学の特色ある研究を強化し、2018年までに外部資金を年間10億円程度まで増強したいと考えています。

より良い研究活動は同時に良質な教

育をもたらします。そして研究の成果によって海外からの評価を上げ、自ずと世界の優秀な学生が集まります。今後は教育と研究を両輪として世界大学ランキング300位以内を目指し、本学を国際標準の大学へと進化させていきます。

ウェブサイト



<http://www.tcu.ac.jp>

【教育・研究】

大気圧プラズマ吸入法による心疾患の緩和治療に成功

工学部医用工学科の平田孝道教授、森晃教授、筒井千尋講師の研究グループは、ヘリウムガスを用いて発生させた大気圧プラズマを小動物（モデルラット）に吸引させることにより、狭心症や心筋梗塞などの心疾患における緩和治療を成功させました。この研究は、文部科学省の科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）『プラズマによる細胞／組織の活性化・改質および再生医療への応用展開』の一環として実施されたものです。今回の緩和治療は虚血性心疾患治療のみならず、低酸素脳症や脳梗塞などの脳疾患、原発性肺高血圧症や新生児遷延性肺高血圧などの呼吸器疾患にも効果が期待できるものと考えられます。今後はさらなる安全性を確立させると同時に、ヒトへの臨床応用を目指します。



モデルラットへの大気圧プラズマ吸入法による心疾患の緩和治療成功報告の記者発表会を開催しました（2014年6月24日）

【大学連携事業】

東京都市大学・早稲田大学 大学院共同原子力専攻シンポジウム実施

2014年10月31日、東京都市大学・早稲田大学 大学院共同原子力専攻は、第10回未来エネルギーシンポジウム「次世代原子炉の安全性はどこまで高められるのか」を開催しました。原子力分野を学ぶ多くの学生も参加し、教員や一般参加者とともに国内外で開発が進められている次世代型原子炉概念の安全性に焦点を当て、その開発の現状と展望について考察しました。講演では各分野の第一人者を招き、原発事故を踏まえたBWR（沸騰水型原子炉）、高温ガス炉、ナトリウム冷却高速炉などの安全性について、現状の取り組みや今後の展開を解説されました。講演後には、両大学の原子力安全教育をテーマとする取り組みなどが紹介されました。



東京都市大学・早稲田大学 大学院共同原子力専攻によるシンポジウムを実施しました

【国際交流】

「さくらサイエンスプラン」で海外の学生と共同研究

産学官の緊密な連携により、優秀なアジアの青少年が日本を短期に訪問し、日本とアジアの青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指し、国立研究開発法人科学技術振興機構が企画している「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」（さくらサイエンスプラン）。2014年5月、7月、12月の3回行われた交流計画に、私立大学ではトップクラスの5件の計画が採択されました。これにより、韓国・江原大学校、マレーシア日本国際工学院、中国・大連交通大学、タイ・タマサート大学とモンクット王工科大学トプリー校の学生が来日し、本学の学生との共同研究や成果発表を実施しました。また、2014年4月に本学と包括連携協定を締結した日本科学未来館への見学も行いました。



「さくらサイエンスプラン」に計画が採択され、アジアの学生が本学を訪問しました

【講演会】

五島慶太先生のゆかりの地でシンポジウムを開催

2014年4月27日、本学と信濃毎日新聞社主催による「東京都市大学シンポジウムin上田」を開催しました。このシンポジウムは本法人の初代理事長である五島慶太先生が、長野県小県郡青木村出身であることから隣接する上田市において開かれました。講師には、上田市出身で理化学研究所名誉研究員の丸山瑛一先生と、2000年にノーベル化学賞を受賞された白川英樹先生をお迎えしました。丸山先生が「世界的大発明と活かすべき日本の特許と技術」、白川先生が「昆虫少年がノーベル化学賞を受賞するまで」をテーマに講演され、お二人の貴重なお話に、約400名の参加者は熱心に耳を傾けていました。



白川英樹先生は自身の生立ちを振り返りながらノーベル化学賞受賞までの道のりを講演

【地域貢献】

10周年を迎えた子育て支援センター「ぴっぴ」

2004年、地域の子育てを支援することを目的に等々力キャンパス内に設置された子育て支援センター「ぴっぴ」。2014年5月31日に利用者23万人を突破し、6月1日に10周年を迎えました。設立以来、子供たちの楽しい遊び場、保護者にとっては子育てについて話し合えるコミュニケーションの場として広く地域の皆様に親しまれ、毎日100名前後の親子が利用しています。

また、本学人間科学部児童学科の学生は2年次から、ここを生きた学び場として実習を行い、常駐する保育士のもと、仕事を体験したり保護者とのふれあいを深めたり、実体験を通じた子育て支援を学んでいます。



子育て支援センター「ぴっぴ」は利用者数が23万人を超え、10周年を迎えました

【学生生活】

バランスの良い朝食を100円で

本学と後援会、校友会の3者が協働で取り組む「朝活応援 100円朝食」。在学生の朝食習慣化促進と、脳の活性化や健康面のサポートを目的に、2014年7月から100円朝食の提供をスタートしました。昨年度は1日平均140人が利用し、アンケート調査では100円で栄養バランスの取れた食事ができることへの喜びと驚きの声も寄せられました。こうした声に応えるため、2015年度前期も継続した提供を実施し、より多くの学生が利用できるよう効率的な運用を図っています。



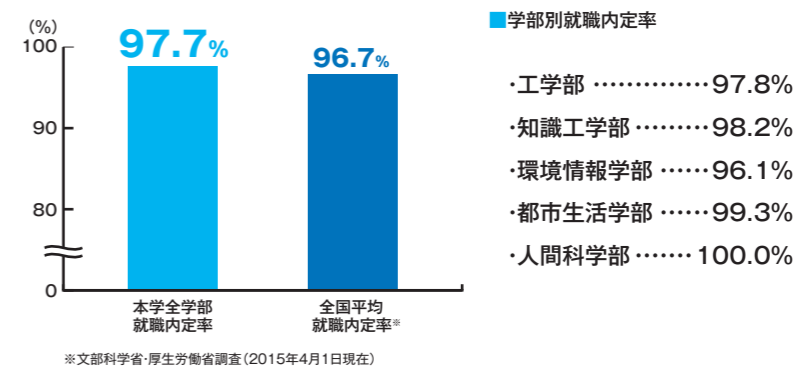
各キャンパスで「100円朝食」を実施

■2014年度の事業実績

| 区分 | 事業 | 概要 |
|--------|--------|--|
| 教育活動 | 教育体制 | ・「アクションプラン2030」の推進のため、管理組織として大学戦略室、事務局企画室を設置 ・東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)推進のため現学生制度を策定 ・英語教育プログラム「都市大スタンダード」と英語基礎学力調査「G-TELP」を検証 |
| | キャリア教育 | ・東急グループ企業22社に79名の学生がインターンシップに参加。成果発表会を開催 ・アメリカ、オーストラリア、タイ、フィリピン、ノルウェー企業でのインターンシップに学生が参加し成果発表会を開催 ・キャリア支援プログラムの一環として開催した「学内企業研究会」に約600社が参加 |
| | 学生支援 | ・五島育英基金の奨学金を大学院生、学部生71名に給費 ・全国20会場で「大学と保護者との連絡会」を開催(1,663世帯が参加) ・東日本大震災で被災した学生に対し、学修の機会を維持できるよう学費免除などの緊急支援を実施 |
| 研究活動 | 実施事業 | ・日本科学未来館と包括連携協定を締結 ・卒業生を講師に招き、経営システム工学科主催の特別授業「グローバル社会における経営」を実施 ・本学を含む8大学の学生が主体となり、地域活性化と多世代共生を目的とするイベント「しんゆりマルシェ」を実施 ・横浜市都筑区との協働により「第12回 地域連携調査研究発表会」を開催 ・工学部建築学科の研究室が福島県いわき市久之浜地区で照明社会実験を実施 |
| 国際交流 | | ・オーストラリアのウーロンゴン大学と大学間協定を締結 ・欧米諸国、ネパール等で様々な海外フィールドワーク研修を実施 |
| 社会貢献 | | ・世田谷区と包括協定を締結。地域と連携し、地域の課題解決を目指す ・第7回図書館企画展「DISCOVER DOBOKU」を実施 ・子育て支援センター「ぴっぴ」開設10周年記念学術講演会を実施 |
| グループ連携 | | ・二子幼稚園との幼大連携を強化 |
| 施設設備 | | ・付属校、総合グラウンドおよび東急自動車学校において放射線量等の測定を実施 ・五島記念館3号館側エントランスに「歴史展示コーナー」を開設 ・PASMO機能付き学生証、教職員証を導入 |

■就職内定率(2015年3月卒業生)

本学では、就職力を「就職力=(基礎力+専門力)×就活力」と考え、様々な取り組みを実施しています。具体的には、体系的に学んだことを振り返るキャリアポートフォリオや学外で行われるキャリア支援プログラムを通じ、自分を知り、社会を知り、自分を磨くことで、内定獲得への確かな就職力を高めています。その結果、全国平均を上回る就職実績を実現しています。





さまざまな学びや体験をとおり 生徒の学習意欲を高めていく

小野 正人 校長

2014年度は、中学受験者数が減少しているなか、5年連続で志願者数都内トップ、6年連続で志願者数増を達成しました。これは、本校の教育に対する期待の高さの現れだと考えています。昨年は、グローバル入試の実施や海外の異文化体験プログラムの導入など、グローバル化に向けて大きく舵を切った一年でした。今後も生徒の自主性を高めるプログラムを取り入れ、「たくましく生きる力」を育てていきます。

中学受験者数が過去最高 大学進学も健闘を見せる

2014年度の卒業生は例年と同様の高い大学進学実績を挙げることができました。

特に国公立大学の合格者数は昨年を上回る61名。現役進学者数は過去最多となりました。私立大学は早慶上理(早稲田大、慶應義塾大、上智大、東京理科大)とICU(国際基督教大)に118名、GMARCH(学習院大、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大)には232名が合格。難関大学への進学者は110名と、中高一貫1期生、2期生とほぼ同数となりました。

2015年度募集の中学入試の総志願者数は前年度を超える5,424名。5年連続で都内私立中学トップの志願者数を集めました。近年、首都圏の私立中学受験者数が減少しているなか、本校は6年連続で志願者数が増加しています。

導入2年目を迎えた帰国生入試は昨年を超える194名の志願者を集めました。さらに2015年度からは英語、算数、作文



理科教育を重視し、実験を通じた学習を充実させています

(日本語)によるグローバル入試を新設。志願者数は49名で7名が入学しました。

さらなるグローバル化のため 新しいプログラムを開始

本校のグローバル化への進展は加速しています。中学3年生と高校1年生を対象にしたニュージーランドへの語学研修は希望者が多く、定員を60名に増員。参加した生徒は、3週間現地校の厳しいプログラムを乗り越えてきたことで自信にあふれ、さらに強い学習意欲を持って帰国しました。また、ニュージーランドの4校と姉妹校提携を結びました。今後は海外校からの訪問も積極的に受け入れていこうと考えています。

2015年度は、夏にマレーシアの異文化体験プログラムを実施する予定です。中学3年生の希望者を対象に、数日間ホームステイしながら、現地校で交換プログラムを行います。

さらに高校1年生全員参加のアメリカ修学旅行を実施するほか、今後は研修先を増やすとともに、長期留学や交換留学の受け入れなど、校内もグローバル化していきたいと思っています。

生徒たちの自主性を高めて 「たくましく生きる力」を養う

本校が目指す「たくましく生きる力」を



校内で100点を超える応募作品があったなかから、投票で選ばれた「としまる。」

育てる一環として、東日本震災以降中断していた臨海学校を新潟県で実施しました。さらに中高の生徒会の一本化、マスコットキャラクター「としまる。」を生徒のアイデアからつくるなど、生徒の自主性を高める活動を推進しました。

また、都市大グループとして等々力中学校・高等学校と野球部の対抗戦を行うほか、吹奏楽部では合同練習や互いの定期演奏会などで交流を深めています。これからもグループ間の連携をさらに広げていきたいと考えています。

ウェブサイト



<http://www.tcu-jsh.ed.jp>

【部活動】

エコカーレースの全国大会で中学生クラスが2連覇達成

2014年9月28日に栃木県のツインリングもてぎで開催された「本田宗一郎杯 Hondaエコマイレージチャレンジ2014 第34回全国大会」の中学生クラスで、自動車部が優勝し、2連覇を達成しました。

全国から16校、30チームが出場した同大会では、ホンダ製の50ccエンジンをベースとしたオリジナル車両で、規定の距離を走るのに要した燃料の量から算出された燃費を競い合いました。

自動車部では新車を設計、製作し、中学生クラスにはじめて2台をエントリー。このうちの1台が896.906km/lの好記録で優勝しました。昨年の同大会でも優勝を果たしており、さらなる記録更新を目指しています。



好記録で優勝し、優勝旗を受け取る自動車部

【部活動】

ブラジルで行われたロボカップジュニア世界大会の2部門で準優勝

高校の2年生コンビが結成したチーム「花鳥風月」が2014年7月に行われた「ロボカップジュニア世界大会」で準優勝に輝きました。

ロボカップは、人の操作なく自ら考えて動く自立移動型ロボットによる競技会です。今回2部門で準優勝となったレスキューB競技部門とは、自作ロボットが迷路のようなコースの様々なトラップをクリアしながら、被災者に見立てたヒーターを見つけるというもの。6月に埼玉大学で行われた日本大会でも、チーム「花鳥風月」は3回の競技中2回ですべてのヒーターを発見し、見事優勝。世界大会では5日間にわたり各国のチームと熱戦を展開し、強いチームワークを発揮しました。



埼玉大学で行われた日本大会では見事優勝。今後の活躍が期待されます

【教育・研究】

進路やキャリアを考える企業研修

「自分の将来を考え、社会的自立の土台を構築させること」を目的に、中学3年生から「キャリア・スタディ」を実施しています。1年間にわたる本プログラムでは、6月のスタート集会からはじまり、8月の企業研修、11月の発表会に向けて様々な取り組みが行われます。訪問先に失礼のないよう、事前に卒業生からの講習や、電話対応などを学ぶマナー講座を実施。2014年8月26日に行われた企業研修では、国土交通省等を訪問しました。同省での研修では、省内を見学し、仕事や役割についての説明を受け、国土交通大臣が記者会見を行う会場で模擬体験を行いました。自らの進路や生き方を考えるきっかけとし、学業への意欲を高めます。



企業研修に訪れた国土交通省

■2014年度の事業実績

| 区分 | 事業 | 概要 |
|------|----------------|--|
| 教育活動 | 教育設計 | ・国際部を新設し、帰国生入試の推進やグローバル入試を導入 ・海外研修旅行プログラムおよびネイティブスピーカーによる英語授業プログラムを構築 ・放課後の英検講座や授業内の演習指導により、英検・漢検の上級取得率が向上 ・中学生全員を対象に自校教育の一環として創立者五島慶太先生を学ぶ会を実施 |
| | キャリア教育 生徒指導 | ・高校1年生の中期修了論文は指導体制を強化し改善、中学3年生のキャリアスタディはプログラムを改善 ・生徒の自治活動が活発に(マスコットキャラクター作成、マナー啓発など) ・中学1年生に携帯電話およびメールに関する講習会を実施 ・部活動において全国大会および世界大会出場の実績をおさめた |
| | 学校間連携 | ・硬式野球部、バスケットボール部、吹奏学部等が等々力中学校・高等学校と交流 |
| 広報活動 | | ・国内外の学校説明会への参加や教育施設訪問を実施し本校をPR |



高い理想の人格教育で グローバルリーダーを育てる

原田 豊 校長

2014年度は、国公私立大学の合格者が大幅に増え、かなり手応えを感じた一年でした。今後はさらに実績を上げるとともに、さらなる志願者数の増加も目指しています。一方で、本校創設者の五島慶太先生の業績や思いを生徒に伝える行事や、国連WFPやユネスコと提携したボランティア活動などを取り入れ、「ノブレス・オブリージュ(気高く生きる者たちの責任と務め)」の精神を育てています。

学習システムを徹底し 進学実績が大幅に向上

2014年度は、独自の学習システム「TQノート」や「システム4A」と、自習室を有効利用した成果で、高い進学実績を挙げることができました。

2014年度卒業生は国公立大学に11名が合格。早慶上理(早稲田大、慶應義塾大、上智大、東京理科大)とICU(国際基督教大)は昨年より倍以上増え56名合格しました。GMARCH(学習院大、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大)については昨年の約3倍の100名が合格と、私立最難関と難関大学の合格者は昨年よりも大幅に増加しました。また、付属進学制度により東京都市大学に37名の生徒が合格しました。

2015年度の中学入試では、新たに最難関国公立大学を目指すS特選コースを新設。特選コースと特進コースも合わせ募集定員を40名増やし、計200名とし志願者総数2,123名を集めました。ま



ノブレス・オブリージュとグローバルリーダーの育成を教育目標としています

た、2014年度から開始した帰国生入試の受験者数は前年より増えて54名となりました。

オーストラリアでの 科学研修を初めて実施

2014年度は国際教育を重点目標の一つとして、オーストラリアでの科学研修を実施しました。ホームステイをしながら学校の授業に参加し、隣接するグリフィス大学を訪問。TRIという医療技術研究機関で遺伝子組み換え技術の講義を聴き、簡単な実験にも参加しました。

提携しているイギリスのラグビー校との交流を深めるため、高校2年生が初めて修学旅行で訪問しました。また、大学入学を控えたラグビー校の生徒が来校し、本校の生徒と交流を深めています。

さらに2015年度入学した中学1年生を対象に、高校1年の夏から1年間留学するグローバルリーダーズ留学プログラムを導入します。

様々な活動を通して 生徒の人間性を高める

2015年度から双方向型授業に力を入れていくため、昨年はその研修を行いました。今年は全教員がジグソー法というアクティブラーニングの方法を適宜授業内に実践することになっています。



五島先生の胸像が常に生徒たちを見守っています

2014年度は「ノブレス・オブリージュの精神」を伝える教育の一環として、生徒に本校創設者の五島慶太先生の業績や教育にかけた思いを伝える「五島慶太先生を学ぶ会」を開きました。

また、ボランティア活動にも力を入れました。その一つとしてWFP(国連の食糧支援機関)と連携してワークショップや講演を実施。月に一度「完食デー」を設けて給食を残さず食べるようにしました。さらに部活動毎に震災で被災した地域の子供たちと遊んだり、老人ホームを訪問しました。

今後も学業だけではなく、「ノブレス・オブリージュの精神」を持った生徒に育てるための教育を進めていきます。

ウェブサイト



<http://www.tcu-todoroki.ed.jp>

【部活動】

舞チア部「The Sparklers」がアメリカで行われた世界大会に出場

舞チア部が、2014年3月に幕張メッセで開催された「USA School&College Nationals 2014ファイナル」で準優勝し、「世界高校チアリーディング大会」の出場権を獲得しました。世界大会「World School Cheerleading Championships」は、2015年2月7日からアメリカのフロリダ州ディズニーワールドで開催され、日本の高校代表チームとして出場しました。

大会本番ではSuper Varsityという30名の部に参加し、笑顔で堂々とした演技を披露。チアリーディングの本場、アメリカの最新技術を体感するとともに、6位という成績をおさめました。2014年度五島育英基金部活動奨励給費も授与され、ますますの活躍が期待されています。



世界大会では多くの観客が見守る中で堂々とした演技を披露

【教育・研究】

等々力高等学校での公開授業をBSジャパン「日経みんなの経済教室」で放送

2015年1月24日、つばさホールで高校1年生を対象に、BSジャパン「日経みんなの経済教室」の番組収録が行われました。同番組は、日本経済新聞の名物コラム「経済教室」を読みこなせるよう、経済の旬なテーマを取り上げ、一流の講師陣が解説するというもの。

公開授業では、「価格は誰が決めるのか?」というテーマを日本大学准教授の安藤至大氏が具体例とともにわかりやすく解説し、生徒たちは緊張した様子ながらも思いの発言をしていました。パネルディスカッションでは、企業の第一線で活躍する方々から「働くことの意義」についての話があり、生徒たちにとってまたとない学びの機会となりました。(2月8日放送 当番組ウェブサイトより閲覧可)



生徒も壇上上がり、活発な質疑応答が行われました

【教育・研究】

「ノブレス・オブリージュ」への理解を深めた「五島慶太先生を学ぶ会」

五島慶太先生の生誕130年を記念する顕彰事業の一環として、2014年5月28日、「五島慶太先生を学ぶ会」を開催。本校の前身は五島先生によって創立された東横商業女学校であり、特にゆかりの深い学校です。講演会では五島先生の教育への思いと「ノブレス・オブリージュとグローバルリーダーの育成」と現在の教育像について講演されました。

講演後には花育・環境委員会が中心となって五島先生の胸像に献花を行い、「ノブレス・オブリージュ」の文字を描き出しました。



カーネーションの献花でつくりあげた「ノブレス・オブリージュ」

■2014年度の事業実績

| 区分 | 事業 | 概要 |
|------|--------|--|
| 教育活動 | 教育設計 | <ul style="list-style-type: none"> ・3学期の研究授業で各教科が積極的に双方向型(ジグソー法)授業を実施 ・研究、行事での班編成や座席などで、男女混合となるよう共学校としてのモデルを提示 ・国際教育委員会で交換留学実現に向けた調整、ギャップ生の受け入れ継続、語学研修の実施等を行った ・全校生徒を対象に自校教育の一環として創立者五島慶太先生を学ぶ会を実施 ・部や学年単位でのTQノートと自習室の利用を高める運動を展開し、自学自習を促進 ・英語国際教育のロードマップに基づき、新コース(S特・GL)の開講準備 |
| | キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生の「自立と共生の旅」をはじめ、宿泊行事について一貫したコンセプトに基づく計画を策定 ・中学1年生を対象に稲作体験実習「命の育み」プログラムを実施 |
| | 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会の設置、ユネスコ・WFPとの連携などの活動でボランティアスピリット賞を受賞 |
| 広報活動 | | <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度入試よりインターネット出願を導入し利便性を向上 |



学力を向上させることで 夢を実現する力をつける

赤羽 利文 校長

運動部が全国大会に出場する活躍を見せるとともに、毎年現役で国公立大学の合格者を輩出するなど、進学実績においても徐々に結果が出始めています。2014年度入学生より学科・コースを再編成し、9月に新校舎が完成したことで学習環境が整いました。今後は教育システムを改善し、教員一人ひとりの指導力も強化して、グローバルリーダーの資質を持つ生徒の育成を目指してまいります。

教育システムが評価され 志願者数は大幅に増加

2014年度の卒業生は信州大、愛知教育大、名桜大といった国公立大学に合格しました。ここ数年、本校では恒常的に国公立大学の合格者を輩出しています。また、法政大や青山学院大をはじめとした有名私立大学へも多くの合格者が出ています。

東京都市大学へは6名が進学しました。6名全員が、本校在学中から双方向通信システムを利用した遠隔授業を受講して、単位を認定されています。

学校説明会と中学校訪問を増やし広報活動にも力を入れるとともに、進学実績が伸びていることや新校舎の完成などの学習環境の整備をアピールしたことにより、2015年度入試の総志願者数は1,556名と前年に比べて300名以上増加しました。本校独自の入試問題は、教育関係者からも高い評価を受けています。

また、本校の教育システムを評価してくださる保護者も増えてきました。そうし



学科・コースを再編成して、より学習しやすいシステムに

た期待に沿えるよう、2015年度は授業に大学入試問題等も活用し、質を向上させ、学習量を増やすために課題(宿題)の充実と朝テストも導入しています。

国際教育を強化して グローバル人材を育てる

2014年度から「特別選抜類型」と「文理進学類型」からなる普通科に再編。より深い理解と定着を図るため、45分授業を平日7時限、土曜日3時限にして3年間で24単位増やしました。さらに教員の指導力を向上させるため、教員相互の授業を参観する「授業研究」を159回実施。授業内容を教員同士で検証しました。

国際教育プログラムでは、昼食時に英語で話す「イングリッシュシャワー」を継続。さらに福島県にあるプリティッシュヒルズで「イングリッシュキャンプ」を実施しました。2015年度からは短期留学も行き、今後もグローバル教育に力を入れていきます。

新校舎・新体育館の完成で さらに充実する学校生活

2014年9月に、新しい校舎と体育館が完成し学習環境が整いました。新校舎4階には、自習スペース、個別指導ブース、グループ学習室などがあり、夜遅くまで



女子バレーボール部が4年連続で春高バレーに出場

部活動に一生懸命に取り組む生徒には、学習時間の確保がしやすいと好評です。

部活動の加入率は70%と高く、非常に盛んです。昨年度はサッカー部、女子バレーボール部、ダンス部が全国大会に出場しました。また、野球部は都市大グループの生徒間交流として付属高等学校と等々力高等学校と3校で交流試合を実施しました。文化部では、茶道、ボランティア、料理、書道など女子生徒の活動も活発です。

その他、東京都市大学の教員を招いて塩尻市民対象の市民公開講座を実施したり、見学バスツアーを開催したりするなど、グループ間連携も行われました。これからも様々な分野で連携していきたいと考えています。

ウェブサイト



<http://www.tcu-shiojiri.ed.jp>

【学習環境】

学習施設が充実した新校舎が完成

2013年から新しい教育理念「Creation&Dignity—創造と品格—」を掲げ、設備と教育システムの両面から大規模な改革を行ってきました。そのなかで設備面の大きな柱になっていた新校舎の工事が無事に完了し、2014年9月17日に竣工式を執り行いました。

新校舎は、鉄筋コンクリート(一部鉄骨造り)の4階建てで、延べ床面積は約6,600㎡になります。15室からなる教室棟には、4階フロアに自習スペース、個別指導ブース、グループ学習室、図書館、65インチの電子黒板などを備える学習支援センターを開設。学習する環境がさらに整備されました。



新校舎と既存校舎が渡り廊下でつながり、中庭を中心とした回遊型校舎配置になりました

【学習環境】

膜構造の屋根が特徴的な明るい体育館も新築

今回、「新校舎建設プロジェクト」として校舎とともに体育館も新築。1階部分は武道館としても使用できる多目的ホール、2階部分が体育館になっています。講堂は、長野県内の高校で最大規模となる360席の移動観覧席があり、1,060名収容可能です。体育館は天井高が12~15mもあり、外の光を取り入れられる膜構造の屋根で明るい造りになっています。さらに外周には、1周122mのランニングコースを設置。雨天時のトレーニングにも活用できます。

こうした体育館を含む新校舎全体に環境に配慮した高断熱性、自然採光、自然通風などの自然エネルギー活用システムが導入されています。



360席の移動観覧席がある新体育館1階の多目的ホール

【部活動】

サッカー部と女子バレーボール部が全国大会に出場

部活動が非常に盛んで、多くの運動部が各種の大会で好成績を収めています。2014年度は、女子バレーボール部が4年連続で春の高校バレー(全日本バレーボール高校選手権大会)に、サッカー部が3年ぶりに全国高校サッカー選手権大会に出場しました。全国大会では、いずれも初戦敗退という結果ながらも、僅差のゲームで選手たちは非常に健闘しました。また試合当日は本校の生徒や卒業生、そして保護者の皆様など多くの方々が応援に駆けつけ、あたたかい声援がおくられました。長野県代表という大きな期待を背に全国の舞台でプレーできたことは生徒たちにとって貴重な経験となりました。



長野県代表としてサッカー部が全国大会に出場しました

■2014年度の事業実績

| 区分 | 事業 | 概要 |
|------|--------|---|
| 教育活動 | 教育設計 | <ul style="list-style-type: none"> 平日7時限、土曜日授業を取り入れるなど、新類型・コースを再編成 新設した「学習支援センター」の利用促進により生徒の学習量の増加を図る 習熟度別授業、センター試験対応の特別編成授業、予備校との連携による学力向上への施策を実施 教科別の年間授業指導実施計画や、進路指導の観点を取り入れたシラバスを作成 新設校設定科目「サイエンスリテラシー」で地元企業や東京都市大学をはじめとする他大学教員による講演会を実施 |
| | キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> 東京都市大学への見学バスツアーを実施 月1回、担任と生徒の面談を実施。学力向上と連携し、学習カウンセリングを実施 企業訪問、SPI3講座、インターンシップなどにより就職内定率100%を達成 |
| | 学校間連携 | <ul style="list-style-type: none"> 双方向通信システムを利用し、東京都市大学環境学部と遠隔授業を実施。受講者全員が単位認定 |
| 広報活動 | | <ul style="list-style-type: none"> 学校の取り組みや新校舎等を映像化しPR活動を促進 |



「高い学力」と「豊かな心」を育み 中学受験を乗り切る力を身に付ける

重永 睦夫 校長

2014年度も私立と国立の難関校に数多く合格しました。募集活動の成功と「平成の名門校」になることを目指して新しい教育プログラムの導入等を進めてきましたが、今後は、現在の募集堅調を定着させる必要があると思っています。新しいことを導入しても「高い学力」と「豊かな心」の二本柱の教育です。この充実のために今後も教員の力量と質を高めることが重要課題になってきています。

保護者の意識改革により 中学進学実績向上を目指す

中学受験は子供の頑張りだけではなく親のサポートが不可欠です。そのため、2014年度から5、6年生の保護者を対象に「父母教室」を実施。中学入試の傾向と対策や応募状況、具体的な勉強法などについて専門の先生が講義しました。

その効果もあり2014年度は、筑波大附属駒場、開成、麻布を始め、駒場東邦、豊島岡女子、栄光学園、聖光学院、慶應中等部、慶應湘南藤沢、浅野など難関私立中学に数多くの合格者を出しました。

また、2014年度の志願者数は346名でした。本校を第一志望にしている子供が増えているようです。これからも諸施



児童の作品を展示した「ほら できたよ展」

策で受験生の注目を集められるよう努めていきます。

英語教育を強化して 公立小の英語必修化に優る

2014年度は英語教育を強化するため、1、2年生の英語の授業を週1時間から2時間に増やしました。さらにネイティブの先生を常勤にし、宿泊行事にも同行してもらうなど子供と過ごす時間が長くなり、子供たちにとって良い影響をもたらしています。また、英語を使った生活を体験するため、福島県のプリティッシュヒルズでの2泊3日の学習プログラムを導入しました。

ほかにも、奈良、京都、琵琶湖を訪れる「修学旅行」や瀬戸内海小豆島の「余島臨海学校」など風光明媚な歴史ある地での学習を行っていますが、2014年度は新たに6年生対象の「北海道卒業記念旅行」としてスキー教室を実施しました。「日本一たのしく中学受験できる小学校」に加えて「日本列島をキャンパスにする学校」を目指し、取り組んでいきます。

宿泊行事と体験学習が 「豊かな心」を育成する

中学受験を乗り切るには「高い学力」とともに「豊かな心」が必要です。本校では豊かな心を養うために6年間で60の体験学習(含宿泊行事)を取り入れています。その一つ、三國清三シェフが指導する食育プログラム「ミクニレッスン」(4年生)は毎年、「保護者満足度調査」で非常に高い評価を得ています。またグループ間連携では、本校卒業生も入部している等々力中学校・高等学校の「舞チア部」と「太鼓部」が全校児童に向けて華やかな演技を披露するなど、各学校との連携を深めてまいります。



実習を交えながら楽しく食の大切さを学べる「ミクニレッスン」を継続しています

2014年度の事業実績

| 区分 | 事業 | 概要 |
|------|------|--|
| 教育活動 | 教育設計 | ・理数に強い学校づくりを目指し、都市大グループの連携による科学教育を充実化 ・算数習熟度別学習のさらなる構築 ・国語読解力育成のため、3年生からの速読法の習得や、6年生受験期の特訓指導を実施 ・高学年の4教科(算数、国語、社会、理科)の学力アップのため、目標偏差値を設定 ・シェフ三國清三氏による食育プログラム「ミクニレッスン」を継続 ・成城警察署の協力を得て、セーフティ教室や交通安全教室などの安全教育を充実 |
| | 研修 | ・教員の質向上のため、学年ブロック会、教員全体会の実施や、校外研修への積極的な参加を促進 |
| 研究活動 | | ・2学期制に関する研究として、前期・後期にダイナミックな学習月を設け、学校行事を配置 ・メディア教室を使用した低学年へのメディア教育など、教育機器の効果的活用法を研究 |
| その他 | | ・家庭と学校の情報共有による進学サポートのため、「父母教室」を開催 |

ウェブサイト



<http://www.tcu-elementary.ed.jp>

“あそび”を二種に組み立て たくましい体と豊かな心を育てる

重永 睦夫 園長

本園は、「課題あそび」と「自由あそび」を組み合わせ、遊びを中心とした三育（知育・徳育・体育）と食育活動を推進しています。2014年度は、教育課程を見直し、日々実践できる充実した内容としました。また、2015年度から幼保一元新制度がスタートしましたが、本園は現行制度の幼稚園として取り組んでまいります。今後とも建学の精神のもと園児たちのたくましい体と豊かな心を育てていきます。



教育の質を保つため 今後も幼稚園として運営

2015年度から幼保一元化の新制度がスタートしたことで、今後、幼稚園と保育園の機能を持つ「認定こども園」が増えてくると予想されます。しかし、本園は幼稚園教育の質を保つため、これからも保育園の機能は備えず、幼稚園として運営していきます。2015年度の募集説明会などでそのことを伝えました。その結果70名の募集に対して応募者数は123名。1.68倍という倍率を得ました。

卒園後の進路については、15名が付属小学校に進学。10名前後がその他の私立と国立の小学校に進学し、半数以上は近隣の公立小学校に進みました。毎



あそびを通じた三育（知育・徳育・体育）と食育を推進しています

年、小学校受験を目指す園児がいますが、本園では授業形式の知育ではなく、幼児教育の王道「あそびを中心とした」教育を進めています。本園では折り紙やお絵描きなどの課題に同時に取り組む「課題あそび」と、グループやひとりで思い思いの時間を過ごす「自由あそび」を組み合わせている点が特徴です。

本物に触れることで 園児の感性が養われる

本園では、できるだけ“本物”に触れる様々な行事を取り入れています。父母の会の協力によりNHK交響楽団を招いたアンサンブル演奏の鑑賞を行いました。本格的なクラシック演奏を園児はみんな目を輝かし耳を澄まして鑑賞します。その他にも移動動物村や劇団を呼んでいきます。

園庭には四季折々の植物を植えていて、自然に触れながら季節感を養います。また、お正月や七夕、コマ回しや餅つきなど、日本の伝統行事や遊びも取り入

れています。

季節感ということでは、園庭のプランターで園児が夏野菜と冬野菜を育成しています。さらに、その野菜を収穫して調理までを行い、食育にもつなげています。

東京都市大学などの グループ間連携を活発化

2014年度も都市大グループとの連携を図りました。東京都市大学人間科学部と連携して学生サポーター制度を作り、運動会や芋掘りなどの行事では、サポーターとして保育に携わってもらいました。学生にとっては実践的な学びとなりますし、保護者からも喜ばれています。

等々力中学校・高等学校とは、科学体験教室を連携して取り組んでいます。紙コップや卵の上に何人乗れるかなど知的好奇心を刺激する実験を見て、園児たちも喜んでいました。

また、近隣施設の「二子玉川ライズ」にオープンした、「東京都市大学二子玉川夢キャンパス」との連携も考えています。

2014年度の事業実績

| 区分 | 事業 | 概要 |
|--------|----|--|
| 教育活動 | | ・年少、年中、年長それぞれの発達を踏まえた指導計画を月毎に設定 |
| | | ・多文化への興味・関心を高めるため、あそびの様子を観察し、子供に適した教材や活動を工夫 ・国旗の絵本や世界地図の活用により、あそびを通して他国の言葉や文化を知る活動を実施 ・他国の言葉や文化の理解のため、民族衣装の着せ替え人形を教材として新たに導入 ・野菜の生長過程を観察するため、園のプランターで夏野菜と冬野菜の栽培を実施 ・自分たちで育てた野菜を調理して食べることにより、好き嫌いを改善する「食育」を実施 |
| グループ連携 | | ・各種行事は、東京都市大学人間科学部児童学科による学生サポーターの参加のもと実施 ・年長と年中組を対象に等々力中学校・高等学校の「科学体験教室」を開催 |

ウェブサイト



<http://www.tcu-futako.ed.jp>

学校法人五島育英会は、2015(平成27)年5月19日に開催した理事会にて、2014(平成26)年度決算を決定しました。本法人では、学校法人会計基準に基づく計算書(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表等)をウェブサイトなどで公開しています。また、消費収支計算書を損益計算書の形式に置き換えた「消費収支計算書(P/L)」、現実の資金移動を示した「キャッシュフロー計算書(C/F)」を公表して、説明責任を積極的に果たすべく努力を続けています。

消費収支計算書 (P/L)

学校法人会計の消費収支計算書をもとに経常収支と特別収支に分けて計算しています。企業会計の損益計算書に相当します。

| | | |
|----------------|---------|------------|
| ①経常収入 | 192.4億円 | 前年比4.1%増 |
| ②経常支出 | 176.2億円 | 前年比2.5%増 |
| ③経常収支差額 ①-② | 16.1億円 | 前年比25.6%増 |
| ④特別収入 | 4.7億円 | 前年比81.6%減 |
| ⑤特別支出 | 2.2億円 | 前年比203.9%増 |
| ⑥特別収支差額 ④-⑤ | 2.4億円 | 前年比90.1%減 |

キャッシュフロー計算書 (C/F)

学校法人を構成する各学校等の教育活動、施設等整備活動、財務活動などに関する資金の動きを表す財務諸表です。

| | | |
|-------------------------|---------|------------|
| ①教育研究活動による キャッシュフロー | 36.2億円 | 前年比18.7%増 |
| ②施設等整備活動による キャッシュフロー | △40.3億円 | 前年比146.1%減 |
| ③財務活動による キャッシュフロー | 6.6億円 | 前年比32.8%減 |
| ④キャッシュフロー計 ①+②+③ | 2.5億円 | 前年比89.3%減 |

*△は、出金が入金より多いことを示しています。

貸借対照表 (B/S)

土地・建物などの資産、借入金などの負債、および純資産の状態を明らかにします。

| 資産 | | 負債・純資産 | |
|----------|----------------------|----------|----------------------|
| 有形固定資産 | 669.0億円 前年比2.9%増 | 長期・短期借入金 | 54.4億円 前年比2.4%増 |
| 各種引当特定資産 | 321.9億円 前年比7.8%増 | 他の負債 | 93.7億円 前年比8.6%減 |
| その他 | 88.1億円 前年比26.2%減 | 純資産 | 930.8億円 前年比2.0%増 |
| 資産合計 | 1079.0億円 前年比1.0%増 | 負債・純資産合計 | 1079.0億円 前年比1.0%増 |

*純資産とは、基本金の部と消費収支差額の部の合計です。

*文中および各計算書に記載した金額は百万円未満等、表示単位未満を切り捨てています。そのため合計や増減などの項目で、計算と一致しない場合があります。

経常支出

人件費の増加等により、前年度に比べて4億3200万円増加し、176億2500万円となりました。

特別収入

資産運用収入、資産売却差額などの収入を計上しています。前年度は土地の売却があり特別収入は25億9400万円を計上しましたが、今年度は土地の売却がなかったため4億7800万円と大きく減少しております。

教育研究活動によるキャッシュフロー

収入が193億8600万円、支出が157億6600万円となり、教育研究活動によるキャッシュフローは36億2000万円のキャッシュインとなりました。

施設等整備活動によるキャッシュフロー

塩尻高等学校新校舎建設、校地購入など施設設備の整備を行い、40億3100万円のキャッシュアウトとなりました。

有形固定資産

有形固定資産は土地、建物の取得により前年度に比べて19億800万円増加の669億円となりました。

純資産

純資産は18億6400万円増加の930億8600万円となりました。自己資金構成比率(=純資産比率)は86.3%となり、前年度より0.9ポイント増加しました。

経常収入

学生生徒等納付金、補助金、手数料などの収入を計上しています。学生生徒数の減少に伴い学生生徒等納付金が減少しましたが、自動車学校による事業収入の増加、補助金収入の増加により、前年度に比べて7億6100万円増加し、192億4000万円となりました。

特別支出

今年度は塩尻高等学校の旧校舎除却により、資産処分差額が増加し2億2900万円を計上しました。

財務活動によるキャッシュフロー

運用収入3億900万円、塩尻高等学校新校舎建設のため新規に5億円の借入を行い、過年度の借入金を3億7100万円返済したことなどにより、6億6800万円のキャッシュインとなりました。

長期・短期借入金

借入金の合計は長期・短期の合計で54億4900万円となりました。過年度の借入金を3億7100万円返済しておりますが、塩尻高等学校新校舎建設が私学事業団の耐震改築長期低利融資の貸付対象となり、あらたに5億円を借り入れたことにより1億2800万円増加しました。

各種引当特定資産

各種引当特定資産の内訳は、長期有価証券29億5900万円、退職給与引当特定資産48億8500万円、施設拡充引当特定資産21億7900万円、奨学資金引当特定資産5600万円、施設計画(2号)引当特定資産11億7200万円、第3号基本基金引当特定資産18億4300万円、奨学金引当特定資産5800万円、寄付積立特定資産3600万円となります。

■主な財務比率

参考:「平成26年度版 今日私学財政 大学・短期大学編」日本私立学校振興・共済事業団

| 比率名 | 算式 | 分類 | 評価 | 平成25年度 大学法人・部門全国平均 (全法人) | | 平成26年度 五島育英会 |
|------------|-------------------|-------------------|----|--------------------------|--------|--------------|
| | | | | (医歯学系除く) | | |
| 帰属収支差額比率 | (帰属収入-消費支出)÷帰属収入 | 経営状況はどうか | △ | 6.0% | 5.2% | 9.5% |
| 消費収支比率 | 消費支出÷消費収入 | 収入と支出のバランスはとれているか | ▼ | 105.6% | 107.8% | 109.5% |
| 学生生徒等納付金比率 | 学生生徒等納付金÷帰属収入 | 収入構成はどうなっているか | ~ | 51.8% | 72.4% | 66.8% |
| 人件費比率 | 人件費÷帰属収入 | 支出構成は適切であるか | ▼ | 49.0% | 52.4% | 48.6% |
| 教育研究経費比率 | 教育研究経費÷帰属収入 | 支出構成は適切であるか | △ | 36.4% | 31.5% | 28.5% |
| 管理経費比率 | 管理経費÷帰属収入 | 支出構成は適切であるか | ▼ | 7.0% | 8.8% | 12.3% |
| 流動比率 | 流動資産÷流動負債 | 負債に備える資産が蓄積されているか | △ | 243.4% | 245.9% | 169.9% |
| 負債比率 | 総負債÷自己資金 | 負債の割合はどうか | ▼ | 17.0% | 14.4% | 15.9% |
| 自己資金構成比率 | (基本基金+消費収支差額)÷総資金 | 自己資金は充実されているか | △ | 85.5% | 87.4% | 86.3% |
| 固定比率 | 固定資産÷自己資金 | 長期資金で固定資産は賅われているか | ▼ | 100.5% | 99.2% | 108.6% |
| 固定長期適合率 | 固定資産÷(自己資金+固定負債) | 長期資金で固定資産は賅われているか | ▼ | 91.2% | 91.7% | 97.3% |
| 総負債比率 | (固定負債+流動負債)÷総資金 | 負債の割合はどうか | ▼ | 14.5% | 12.6% | 13.7% |

*自己資金:基本基金+消費収支差額

*△:高い値がよい ▼:低い値がよい ~:どちらともいえない

2014(平成26)年度 消費収支計算書(P/L)

(単位:百万円)

| 科目 | 当年度決算 | 前年度決算 | 差異 |
|--------------------|---------|---------|------|
| 経常収支の部 | | | |
| 学生生徒等納付金 | 13,173 | 13,496 | △323 |
| 手数料 | 566 | 600 | △34 |
| 寄付金 | 190 | 168 | 21 |
| 補助金 | 2,075 | 1,325 | 749 |
| 資産運用収入 | 563 | 551 | 11 |
| 事業収入 | 2,049 | 1,814 | 234 |
| 雑収入(退職金団体交付金を除く) | 143 | 160 | △17 |
| 退職金団体交付金 | 478 | 360 | 118 |
| 経常収入(A) | 19,240 | 18,479 | 761 |
| 人件費(退職給与引当金繰入額を除く) | 8,852 | 8,692 | 160 |
| 退職給与引当金繰入額 | 722 | 534 | 188 |
| 教育研究経費 | 5,618 | 5,551 | 66 |
| (減価償却額) | (1,929) | (1,885) | 43 |
| 管理経費 | 2,432 | 2,415 | 16 |
| (減価償却額) | (366) | (356) | 10 |
| 経常支出(B) | 17,625 | 17,193 | 432 |
| I 経常収支差額(A-B) | 1,615 | 1,286 | 328 |

| 特別収支の部 | | | |
|----------------|-----|-------|--------|
| 資産運用収入 | 309 | 275 | 33 |
| 資産売却差額 | 168 | 2,318 | △2,149 |
| 特別収入(C) | 478 | 2,594 | △2,116 |
| 借入金等利息 | 40 | 49 | △9 |
| 資産処分差額他 | 189 | 25 | 163 |
| 特別支出(D) | 229 | 75 | 153 |
| II 特別収支差額(C-D) | 248 | 2,518 | △2,269 |

| | | | |
|------------------|--------|--------|--------|
| III 帰属収支差額(I+II) | 1,864 | 3,805 | △1,941 |
| 基本金組入額(E) | △3,411 | △2,201 | △1,210 |
| 消費収支差額(III+E) | △1,547 | 1,604 | △3,151 |

| | | | |
|--------|-----|-----|------|
| 基本金取崩額 | 156 | 550 | △393 |
|--------|-----|-----|------|

貸借対照表(B/S)

資産は、土地および建物の取得等により11億1400万円増加し1079億700万円となりました。負債は収益事業元入金の減少等により7億4900万円減少し、148億2100万円となりました。負債・基本金および消費収支差額の部合計は11億1400万円増加し、1079億700万円となりました。

2014(平成26)年度 貸借対照表(B/S)

(単位:百万円)

| 科目 | 本年度末残高 | 前年度末残高 | 増減 | 科目 | 本年度末残高 | 前年度末残高 | 増減 |
|-------------|---------|---------|--------|--------------------------|---------|---------|--------|
| 資産の部 | | | | 負債・基本金および消費収支差額の部 | | | |
| 固定資産 | 101,092 | 98,192 | 2,899 | 固定負債 | 10,809 | 11,426 | △617 |
| 有形固定資産 | 66,900 | 64,992 | 1,908 | 長期借入金 | 5,006 | 4,949 | 57 |
| 土地 | 29,944 | 27,790 | 2,154 | 退職給与引当金 | 4,915 | 5,033 | △118 |
| 建物 | 29,614 | 29,038 | 575 | 長期預り金 | 375 | 421 | △46 |
| 構築物 | 1,973 | 2,070 | △96 | その他 | 512 | 1,021 | △509 |
| 機器備品等 | 2,862 | 3,204 | △342 | 流動負債 | 4,011 | 4,143 | △132 |
| 図書 | 2,505 | 2,484 | 21 | 短期借入金 | 442 | 371 | 71 |
| 建設仮勘定 | 0 | 403 | △403 | 未払金 | 300 | 479 | △178 |
| その他の固定資産 | 34,191 | 33,199 | 991 | 前受金 | 2,717 | 2,743 | △25 |
| 借地権 | 1,027 | 1,457 | △429 | 預り金他 | 549 | 549 | 0 |
| 施設利用権等 | 348 | 620 | △271 | 負債の部合計 | 14,821 | 15,570 | △749 |
| 収益事業元入金等 | 622 | 1,261 | △638 | 基本金 | 97,489 | 94,234 | 3,255 |
| 各種引当特定資産 | 32,191 | 29,860 | 2,331 | 第1号基本金 | 93,253 | 90,022 | 3,231 |
| 流動資産 | 6,814 | 8,600 | △1,785 | 第2号基本金 | 1,172 | 1,172 | 0 |
| 現金預金 | 5,400 | 6,121 | △721 | 第3号基本金 | 1,843 | 1,819 | 24 |
| 未収入金 | 567 | 503 | 63 | 第4号基本金 | 1,221 | 1,221 | 0 |
| 有価証券 | 801 | 1,902 | △1,100 | 消費収支差額の部 | △4,403 | △3,012 | △1,391 |
| その他 | 45 | 72 | △26 | (純資産) | 93,086 | 91,221 | 1,864 |
| 資産の部合計 | 107,907 | 106,792 | 1,114 | 負債・基本金および消費収支差額の部合計 | 107,907 | 106,792 | 1,114 |

消費収支計算書(P/L)

【経常収支の部】

経常収入では、学生生徒等納付金は131億7300万円となりました。学生生徒数が190名減少し11,873名となったため、納付金収入は前年度決算と比較して3億2300万円の減少となりました。手数料収入は5億6600万円となりました。志願者数は21,792名となり、1,299名減少したことにより3400万円の減少となりました。寄付金は1億9000万円となり、2100万円増加しました。補助金は20億7500万円となり7億4900万円増加しました。資産運用収入は5億6300万円となり1100万円増加しました。事業収入は20億4900万円となり2億3400万円増加しました。大学の受託研究料の増加が主な要因となります。退職金社財団からの交付金は4億7800万円、その他雑収入は1億4300万円となりました。

一方経常支出は、退職給与引当金繰入額を除く人件費は88億5200万円となり1億6000万円増加しました。専任教職員数は784人となっております。教育研究経費は56億1800万円となり6600万円増加しました。除却費が減少しましたが、光熱水費、修繕費、減価償却額が増加しております。管理経費は24億3200万円となり、1600万円増加しております。委託費が減少しましたが、修繕費、公租公課が増加しております。

以上により経常収支差額は16億1500万円の収入超過となりました。

【特別収支の部】

資産運用収入は3億900万円となり3300万円増加しました。資産売却差額は1億6800万円となり、21億4900万円減少しております。これは前年度には土地売却による収入があったことによります。借入金利息は4000万円となりました。借入金の返済が一部終了したため、900万円減少しております。資産処分差額の1億8900万円は、主に塩尻高等学校の新校舎建設に伴い旧校舎を除却したことによります。

以上により特別収支差額は2億4800万円の収入超過となり、経常収支と特別収支をあわせた帰属収支差額は18億6400万円の収入超過となりました。

帰属収支差額から基本金組入額を差し引いた消費収支差額は15億4700万円の支出超過の決算となりました。

キャッシュフロー計算書(C/F)

「教育研究活動によるキャッシュフロー」は36億2000万円のキャッシュインとなりました。前年度決算と比較すると、収入では学生生徒等納付金収入、手数料収入などが減少し、補助金収入、事業収入が増加、支出では人件費支出が増加しました。

「施設等整備活動によるキャッシュフロー」は、塩尻高等学校新校舎建設、校地購入等、施設設備の整備を行った結果、40億3100万円のキャッシュアウトとなりました。

これらを合計した「事業活動によるキャッシュフロー」では、

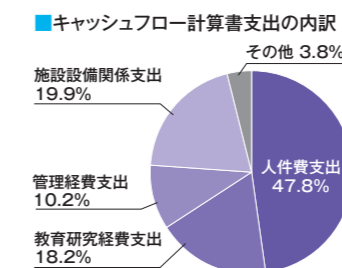
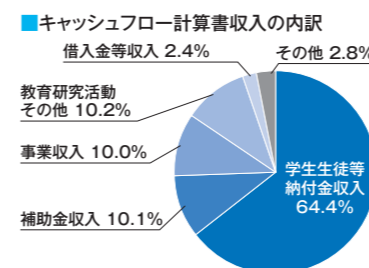
2014(平成26)年度 キャッシュフロー計算書(C/F)

(単位:百万円)

| 科目 | 当年度決算 | 前年度決算 | 差異 |
|------------------------------|--------|--------|--------|
| 事業活動によるキャッシュフロー | | | |
| i 教育研究活動によるキャッシュフロー | | | |
| 学生生徒等納付金収入 | 13,173 | 13,496 | △323 |
| 手数料収入 | 566 | 600 | △34 |
| 寄付金収入 | 123 | 88 | 34 |
| 補助金収入 | 2,075 | 1,308 | 766 |
| 事業収入 | 2,049 | 1,814 | 234 |
| 退職金団体交付金収入 | 478 | 360 | 118 |
| その他 | 919 | 862 | 57 |
| 小計(A) | 19,386 | 18,532 | 854 |
| 人件費支出(退職金支出を除く) | 8,825 | 8,692 | 133 |
| 退職金支出 | 823 | 677 | 145 |
| 教育研究経費支出 | 3,684 | 3,660 | 24 |
| 管理経費支出 | 2,065 | 2,059 | 6 |
| その他 | 366 | 392 | △25 |
| 小計(B) | 15,766 | 15,482 | 284 |
| (A-B) | 3,620 | 3,050 | 569 |
| ii 施設等整備活動によるキャッシュフロー | | | |
| 施設設備関係補助金収入 | 0 | 17 | △17 |
| 不動産等売却収入 | 0 | 2,493 | △2,493 |
| 小計(C) | 0 | 2,510 | △2,510 |
| 施設関係支出 | 3,459 | 3,793 | △334 |
| 設備関係支出 | 389 | 510 | △120 |
| その他 | 181 | △155 | 337 |
| 小計(D) | 4,031 | 4,148 | △117 |
| (C-D) | △4,031 | △1,637 | △2,393 |
| I 事業活動によるキャッシュフロー(i+ii) | △411 | 1,412 | △1,823 |

| | | | |
|-------------------------|-------|-------|------|
| 財務活動によるキャッシュフロー | | | |
| 資産運用収入 | 309 | 275 | 33 |
| 借入金等収入 | 500 | 1,200 | △700 |
| その他 | 269 | 0 | 269 |
| 小計(E) | 1,079 | 1,476 | △396 |
| 借入金等利息支出 | 40 | 49 | △9 |
| 借入金等返済支出 | 371 | 431 | △60 |
| 小計(F) | 411 | 481 | △69 |
| II 財務活動によるキャッシュフロー(E-F) | 668 | 995 | △326 |

| | | | |
|-----------------|-----|-------|--------|
| キャッシュフロー計(I+II) | 257 | 2,407 | △2,150 |
|-----------------|-----|-------|--------|



4億1100万円のキャッシュアウトとなりました。

「財務活動によるキャッシュフロー」は、6億6800万円のキャッシュインとなっております。収入は、塩尻高等学校新校舎建設のため5億円の借入を行いました。資産運用収入は3億900万円を計上しております。その他の収入2億6900万円は施設利用権償還収入です。

支出は過年度借入の利息、返済により4億1100万円となっております。

事業活動と財務活動を合計したキャッシュフロー計は2億5700万円のキャッシュインとなりました。

キャッシュフロー計算書とは

キャッシュフロー計算書は、会計年度内に遂行した資金の動き(キャッシュフロー)を表した財務諸表です。教育研究、施設整備、財務などに区分してキャッシュフローを計算し、それぞれの収入と支出から健全な学校経営がなされているかを確認します。

企業会計においては、2000年3月期からキャッシュフロー計算書の作成が義務付けられており、国立大学法人会計基準、公益法人会計基準においてもこれになっています。

事業活動によるキャッシュフロー

「教育研究活動によるキャッシュフロー」は、各学校の教育研究活動と収益部門による営業活動を含めた金額で構成しており、収入超過が通常の状態です。

「施設等整備活動によるキャッシュフロー」は、校舎の建設や機器・備品を購入するための資金の動きを表しており、支出超過が通常の状態になります。

教育研究活動と施設等整備活動によるキャッシュフローの合計が「事業活動によるキャッシュフロー」となります。

財務活動によるキャッシュフロー

「財務活動によるキャッシュフロー」は、資金を調達、返済するための活動、すなわち資産運用や借入金に関する活動を表しています。

キャッシュフロー計算書(C/F)

(単位:百万円)

| 科目 | 2010(平成22)年度 | 2011(平成23)年度 | 2012(平成24)年度 | 2013(平成25)年度 | 2014(平成26)年度 |
|--------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 事業活動によるキャッシュフロー | | | | | |
| i 教育研究活動によるキャッシュフロー | | | | | |
| 学生生徒等納付金収入 | 12,518 | 13,076 | 13,542 | 13,496 | 13,173 |
| 手数料収入 | 539 | 540 | 614 | 600 | 566 |
| 寄付金収入 | 62 | 95 | 88 | 88 | 123 |
| 補助金収入 | 2,476 | 2,304 | 2,166 | 1,308 | 2,075 |
| 事業収入 | 1,192 | 1,461 | 1,657 | 1,814 | 2,049 |
| 退職金団体交付金収入 | 360 | 367 | 328 | 360 | 478 |
| その他 | 1,657 | 948 | 1,089 | 862 | 919 |
| 小計(A) | 18,807 | 18,793 | 19,487 | 18,532 | 19,386 |
| 人件費支出(退職金支出を除く) | 8,399 | 8,576 | 8,667 | 8,692 | 8,825 |
| 退職金支出 | 590 | 763 | 688 | 677 | 823 |
| 教育研究経費支出 | 3,666 | 3,734 | 3,542 | 3,660 | 3,684 |
| 管理経費支出 | 2,240 | 2,110 | 1,995 | 2,059 | 2,065 |
| その他 | 351 | 152 | 609 | 392 | 366 |
| 小計(B) | 15,249 | 15,338 | 15,503 | 15,482 | 15,766 |
| (A-B) | 3,557 | 3,455 | 3,983 | 3,050 | 3,620 |
| ii 施設等整備活動によるキャッシュフロー | | | | | |
| 施設設備関係補助金収入 | 55 | 11 | 7 | 17 | 0 |
| 不動産等売却収入 | 2,121 | 3,568 | 66 | 2,493 | 0 |
| 小計(C) | 2,176 | 3,579 | 74 | 2,510 | 0 |
| 施設関係支出 | 4,676 | 2,461 | 1,089 | 3,793 | 3,459 |
| 設備関係支出 | 773 | 431 | 458 | 510 | 389 |
| その他 | △71 | 49 | 63 | △155 | 181 |
| 小計(D) | 5,379 | 2,943 | 1,611 | 4,148 | 4,031 |
| (C-D) | △3,202 | 636 | △1,537 | △1,637 | △4,031 |
| I 事業活動によるキャッシュフロー(I+ii) | 355 | 4,092 | 2,446 | 1,412 | △411 |
| 財務活動によるキャッシュフロー | | | | | |
| 資産運用収入 | 202 | 225 | 249 | 275 | 309 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 2,000 | 1,200 | 500 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 269 |
| 小計(E) | 202 | 225 | 2,249 | 1,476 | 1,079 |
| 借入金等利息支出 | 86 | 73 | 60 | 49 | 40 |
| 借入金等返済支出 | 715 | 715 | 711 | 431 | 371 |
| 小計(F) | 801 | 788 | 771 | 481 | 411 |
| II 財務活動によるキャッシュフロー(E-F) | △599 | △563 | 1,477 | 995 | 668 |
| キャッシュフロー計(I+II) | △244 | 3,529 | 3,924 | 2,407 | 257 |

| 科目 | 2010(平成22)年度 | 2011(平成23)年度 | 2012(平成24)年度 | 2013(平成25)年度 | 2014(平成26)年度 |
|-------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 消費収支計算書(P/L) | | | | | |
| 経常収支の部 | | | | | |
| 学生生徒等納付金 | 12,518 | 13,076 | 13,542 | 13,496 | 13,173 |
| 手数料 | 539 | 540 | 614 | 600 | 566 |
| 寄付金 | 154 | 169 | 153 | 168 | 190 |
| 補助金 | 2,531 | 2,316 | 2,173 | 1,325 | 2,075 |
| 資産運用収入 | 619 | 538 | 476 | 551 | 563 |
| 事業収入 | 1,192 | 1,461 | 1,657 | 1,814 | 2,049 |
| 雑収入(退職金団体交付金を除く) | 178 | 196 | 182 | 160 | 143 |
| 退職金団体交付金 | 360 | 367 | 328 | 360 | 478 |
| 経常収入(A) | 18,095 | 18,666 | 19,130 | 18,479 | 19,240 |
| 人件費(退職給与引当金繰入額を除く) | 8,399 | 8,576 | 8,667 | 8,692 | 8,852 |
| 退職給与引当金繰入額 | 676 | 537 | 597 | 534 | 722 |
| 教育研究経費 | 5,588 | 5,738 | 5,475 | 5,551 | 5,618 |
| (減価償却額) | (1,920) | (2,003) | (1,930) | (1,885) | (1,929) |
| 管理経費 | 2,605 | 2,509 | 2,381 | 2,415 | 2,432 |
| (減価償却額) | (364) | (387) | (384) | (356) | (366) |
| 経常支出(B) | 17,269 | 17,362 | 17,122 | 17,193 | 17,625 |
| I 経常収支差額(A-B) | 825 | 1,304 | 2,007 | 1,286 | 1,615 |
| 特別収支の部 | | | | | |
| 資産運用収入 | 201 | 224 | 249 | 275 | 309 |
| 資産売却差額 | 2,104 | 3,537 | 68 | 2,318 | 168 |
| 特別収入(C) | 2,306 | 3,761 | 317 | 2,594 | 478 |
| 借入金等利息 | 86 | 73 | 60 | 49 | 40 |
| 資産処分差額他 | 281 | 534 | 177 | 25 | 189 |
| 特別支出(D) | 367 | 607 | 238 | 75 | 229 |
| II 特別収支差額(C-D) | 1,938 | 3,153 | 79 | 2,518 | 248 |
| III 帰属収支差額(I+II) | 2,763 | 4,458 | 2,086 | 3,805 | 1,864 |
| 基本金組入額(E) | △4,869 | △2,751 | △1,058 | △2,201 | △3,411 |
| 消費収支差額(III+E) | △2,105 | 1,706 | 1,028 | 1,604 | △1,547 |
| 基本金取崩額 | 0 | 1,352 | 2 | 550 | 156 |

消費収支計算書(P/L)

(単位:百万円)

| 科目 | 2010(平成22)年度 | 2011(平成23)年度 | 2012(平成24)年度 | 2013(平成25)年度 | 2014(平成26)年度 |
|-------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 消費収支計算書(P/L) | | | | | |
| 経常収支の部 | | | | | |
| 学生生徒等納付金 | 12,518 | 13,076 | 13,542 | 13,496 | 13,173 |
| 手数料 | 539 | 540 | 614 | 600 | 566 |
| 寄付金 | 154 | 169 | 153 | 168 | 190 |
| 補助金 | 2,531 | 2,316 | 2,173 | 1,325 | 2,075 |
| 資産運用収入 | 619 | 538 | 476 | 551 | 563 |
| 事業収入 | 1,192 | 1,461 | 1,657 | 1,814 | 2,049 |
| 雑収入(退職金団体交付金を除く) | 178 | 196 | 182 | 160 | 143 |
| 退職金団体交付金 | 360 | 367 | 328 | 360 | 478 |
| 経常収入(A) | 18,095 | 18,666 | 19,130 | 18,479 | 19,240 |
| 人件費(退職給与引当金繰入額を除く) | 8,399 | 8,576 | 8,667 | 8,692 | 8,852 |
| 退職給与引当金繰入額 | 676 | 537 | 597 | 534 | 722 |
| 教育研究経費 | 5,588 | 5,738 | 5,475 | 5,551 | 5,618 |
| (減価償却額) | (1,920) | (2,003) | (1,930) | (1,885) | (1,929) |
| 管理経費 | 2,605 | 2,509 | 2,381 | 2,415 | 2,432 |
| (減価償却額) | (364) | (387) | (384) | (356) | (366) |
| 経常支出(B) | 17,269 | 17,362 | 17,122 | 17,193 | 17,625 |
| I 経常収支差額(A-B) | 825 | 1,304 | 2,007 | 1,286 | 1,615 |
| 特別収支の部 | | | | | |
| 資産運用収入 | 201 | 224 | 249 | 275 | 309 |
| 資産売却差額 | 2,104 | 3,537 | 68 | 2,318 | 168 |
| 特別収入(C) | 2,306 | 3,761 | 317 | 2,594 | 478 |
| 借入金等利息 | 86 | 73 | 60 | 49 | 40 |
| 資産処分差額他 | 281 | 534 | 177 | 25 | 189 |
| 特別支出(D) | 367 | 607 | 238 | 75 | 229 |
| II 特別収支差額(C-D) | 1,938 | 3,153 | 79 | 2,518 | 248 |
| III 帰属収支差額(I+II) | 2,763 | 4,458 | 2,086 | 3,805 | 1,864 |
| 基本金組入額(E) | △4,869 | △2,751 | △1,058 | △2,201 | △3,411 |
| 消費収支差額(III+E) | △2,105 | 1,706 | 1,028 | 1,604 | △1,547 |
| 基本金取崩額 | 0 | 1,352 | 2 | 550 | 156 |

2015(平成27)年3月31日現在の財産の目録です

(単位:円)

財産目録 2015(平成27)年3月31日

| | | |
|----------------------|---|-----------------|
| I 資産総額 | 金 | 107,907,329,396 |
| 内 1 基本財産 | 金 | 66,944,873,191 |
| 2 運用財産 | 金 | 36,216,065,670 |
| [3 収益事業用財産] | 金 | 4,746,390,535 |
| II 負債総額 | 金 | 14,821,196,218 |
| III 正味財産* | 金 | 93,086,133,178 |

(注記) 資産の価額は取得価額(減価償却資産については帳簿価額)基準による

* 正味財産とは、資産総額から負債総額を差し引いた金額です。

1. 資産

1. 基本財産

(単位:円)

| 区分 | 数量 | 価額・金額 |
|---------------------|-------------|----------------|
| (1) 土地 | 318,574.45㎡ | 29,496,184,892 |
| (2) 建物 | 175,198.92㎡ | 27,455,796,758 |
| (3) 構築物 | - | 1,189,991,609 |
| (4) 教具・校具および備品 | 56,419点 | 2,793,960,335 |
| (5) 図書 | 570,574冊 | 2,505,178,679 |
| (6) 車輛 | 15台 | 13,149,749 |
| (7) 建設仮勘定 | 0口 | 0 |
| (8) 借地権 | 16,342.28㎡ | 318,785,680 |
| (9) 電話加入権 | 184台 | 10,675,915 |
| (10) 施設利用権 | 22件 | 5,052,640 |
| (11) ソフトウェア | 90口 | 84,075,551 |
| (12) 施設取得計画(2号)引当資産 | 1口 | 1,172,000,000 |
| (13) 第3号基本金引当資産 | 3口 | 1,843,291,358 |
| (14) 奨学資金引当特定資産 | 2口 | 56,730,025 |
| 計 | - | 66,944,873,191 |

2. 運用財産

(単位:円)

| 区分 | 数量 | 価額・金額 |
|----------------|-------------|----------------|
| (1) 預金・現金 | - | 4,816,232,708 |
| (2) 退職給与引当特定資産 | 5口 | 4,885,500,000 |
| (3) 施設拡充引当特定資産 | 10口 | 21,179,500,000 |
| (4) 奨学資金引当特定資産 | 1口 | 58,432,820 |
| (5) 寄付積立特定資産 | 2口 | 36,913,321 |
| (6) 有価証券 | 1口 | 2,959,573,659 |
| (7) 不動産 | 109,408.20㎡ | 448,788,857 |
| (8) 収益事業元入金 | 1口 | 500,000,000 |
| (9) 長期貸付金 | 5口 | 3,138,600 |
| (10) 短期貸付金 | 0口 | 0 |
| (11) 未収入金 | 74口 | 490,062,243 |
| (12) 貯蔵品 | - | 482,067 |
| (13) 前払金 | 35口 | 20,143,757 |
| (14) 立替金 | 2口 | 3,264,257 |
| (15) 仮払金 | 4口 | 12,340,270 |
| (16) 短期有価証券 | 1口 | 801,693,111 |
| 計 | - | 36,216,065,670 |

3. 収益事業用財産

(単位:円)

| 区分 | 数量 | 価額・金額 |
|-------------------|-----------|---------------|
| (1) 事業用建物 | 8,405.29㎡ | 2,158,290,984 |
| (2) 事業用構築物 | - | 783,927,456 |
| (3) 事業用動産(機器・備品他) | 252点 | 55,375,408 |
| (4) 借地権 | 130.81㎡ | 709,200,000 |
| (5) 施設利用権 | 13件 | 332,610,254 |
| (6) 修繕積立金 | 1口 | 34,558,459 |
| (7) 長期前払費用 | 1件 | 1,089,595 |
| (8) 設備利用権 | 8件 | 638,743 |
| (9) 預金・現金 | - | 583,782,333 |
| (10) 未収入金 | 20口 | 77,340,564 |
| (11) 貯蔵品 | - | 1,170,558 |
| (12) 前払金 | 35口 | 8,379,962 |
| (13) 立替金 | 1口 | 26,219 |
| 計 | - | 4,746,390,535 |

2. 負債

1. 固定負債

(単位:円)

| 区分 | 数量 | 価額・金額 |
|-------------|------|---------------|
| (1) 長期借入金 | 11口 | 5,006,890,000 |
| (2) 退職給与引当金 | 572人 | 4,568,288,401 |
| (3) 長期未払金 | 1口 | 1,887,900 |
| 計 | - | 9,577,066,301 |

2. 流動負債

(単位:円)

| 区分 | 数量 | 価額・金額 |
|-----------|-----|---------------|
| (1) 短期借入金 | 9口 | 442,970,000 |
| (2) 前受金 | 13口 | 2,457,972,300 |
| (3) 未払金 | 14口 | 216,027,329 |
| (4) 預り金 | 31口 | 517,170,728 |
| 計 | - | 3,634,140,357 |

3. 収益事業用負債

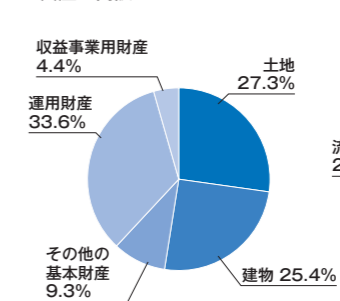
(単位:円)

| 区分 | 数量 | 価額・金額 |
|-------------|-----|---------------|
| (1) 退職給与引当金 | 65人 | 346,744,300 |
| (2) 長期預り金 | 14口 | 375,362,286 |
| (3) 長期未払金 | 3口 | 10,466,400 |
| (4) 収益事業元入金 | 1口 | 500,000,000 |
| (5) 未払金 | 2口 | 84,921,346 |
| (6) 前受金 | 6口 | 259,895,691 |
| (7) 預り金 | 2口 | 5,755,537 |
| (8) 未払費用 | 1口 | 26,844,000 |
| 計 | - | 1,609,989,560 |

借入財産

| 区分 | 数量 | 備考 |
|--------|------------|-----------|
| (1) 土地 | 84,647.38㎡ | 東京都市大学校地他 |
| (2) 建物 | 0.00㎡ | (該当なし) |
| 計 | - | - |

■資産の内訳



* 数値データは、2015年5月1日現在のものです。

■ 東京都市大学グループ各学校(園)の学生・生徒・児童・園児数

(単位:人)

| 区分 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 東京都市大学 | | | | |
| 工学部 | 3,114 | 3,117 | 3,071 | 3,092 |
| 知識工学部 | 1,196 | 1,242 | 1,238 | 1,229 |
| 環境情報学部 | 1,962 | 1,470 | 984 | 537 |
| 環境学部 | | 261 | 427 | 592 |
| メディア情報学部 | | 250 | 450 | 641 |
| 都市生活学部 | 708 | 725 | 705 | 713 |
| 人間科学部 | 425 | 438 | 438 | 427 |
| (大学院) | | | | |
| 工学研究科 | 646 | 592 | 550 | 530 |
| 環境情報学研究科 | 60 | 55 | 41 | 35 |
| 付属高等学校 | 699 | 703 | 706 | 737 |
| 付属中学校 | 776 | 786 | 795 | 829 |
| 等々力高等学校 | 704 | 478 | 515 | 530 |
| 等々力中学校 | 458 | 462 | 474 | 519 |
| 塩尻高等学校 | 811 | 799 | 793 | 785 |
| 付属小学校 | 474 | 475 | 477 | 478 |
| 二子幼稚園 | 208 | 210 | 209 | 208 |
| 合計 | 12,241 | 12,063 | 11,873 | 11,882 |

■ 東京都市大学グループ各学校の延べ志願者数

(単位:人)

| 区分 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 東京都市大学 | 16,282 | 18,818 | 18,520 | 17,214 |
| その他 | 10,136 | 11,021 | 10,199 | 10,205 |
| 合計 | 26,418 | 29,839 | 28,719 | 27,419 |

■ 五島育英会の教職員数

(単位:人)

| 区分 | 教員 | | 専任職員 |
|-------------------|-----|-----|------|
| | 専任 | 非常勤 | |
| 法人本部 | 0 | 0 | 39 |
| 東京都市大学 | 270 | 325 | 179 |
| 東京都市大学付属中学校・高等学校 | 72 | 45 | 6 |
| 東京都市大学等々力中学校・高等学校 | 57 | 38 | 5 |
| 東京都市大学塩尻高等学校 | 47 | 16 | 7 |
| 東京都市大学付属小学校 | 18 | 10 | 5 |
| 東京都市大学二子幼稚園 | 12 | 1 | 1 |
| 東急自動車学校 | 0 | 0 | 78 |
| 合計 | 476 | 435 | 320 |

■ 東京都市大学グループ各学校の校地・校舎の規模

(単位:m)

| | 東京都市大学 | | | |
|------|-------------------------|----------------------|--------------|------------------|
| | 工学部・知識工学部 ^{*1} | 環境情報学部・環境学部・メディア情報学部 | 都市生活学部・人間科学部 | 合計 ^{*2} |
| 校地面積 | 151,617.36 | 64,687.96 | 11,531.00 | 227,836.32 |
| 校舎面積 | 79,806.51 | 21,403.71 | 14,326.18 | 115,536.40 |

(単位:m)

| | 付属中学校・高等学校 | 等々力中学校・高等学校 ^{*3} | 塩尻高等学校 | 付属小学校 | 二子幼稚園 | 全体合計 |
|------|------------|---------------------------|-----------|----------|----------|------------|
| 校地面積 | 19,455.00 | 37,992.00 | 39,896.00 | 7,588.00 | 1,881.00 | 334,648.32 |
| 校舎面積 | 16,618.54 | 15,520.57 | 15,021.31 | 5,978.51 | 1,168.35 | 169,843.68 |

^{*1} 世田谷キャンパスおよび原子力研究所・総合研究所の計 ^{*2} 校舎面積に渋谷サテライトクラス(297.59m)および二子玉川キャンパス(574.23m)は含めない ^{*3} 総合グラウンド(校地)26,901.00m²、(校舎)950.87m²を含む

■ 東京都市大学グループ各学校の図書館蔵書数

※1(単位:冊) ※2(単位:点)

| | 都市大グループ総数 | 東京都市大学 | | | 付属中学校・高等学校 | 等々力中学校・高等学校 | 塩尻高等学校 | 付属小学校 | 二子幼稚園 |
|----------------------|-----------|----------|---------|----------|------------|-------------|--------|--------|-------|
| | | 世田谷キャンパス | 横浜キャンパス | 等々力キャンパス | | | | | |
| 和書 ^{*1} | 548,314 | 196,403 | 104,138 | 155,252 | 38,201 | 26,539 | 11,083 | 13,945 | 2,753 |
| 洋書 ^{*1} | 120,566 | 80,126 | 17,920 | 21,274 | 37 | 1,209 | 0 | 0 | 0 |
| 小計 | 668,880 | 276,529 | 122,058 | 176,526 | 38,238 | 27,748 | 11,083 | 13,945 | 2,753 |
| 雑誌種類数 ^{*2} | 2,812 | 2,113 | 364 | 206 | 79 | 31 | 11 | 8 | 0 |
| 視聴覚資料数 ^{*2} | 10,760 | 3,862 | 5,115 | 720 | 448 | 402 | 213 | 0 | 0 |
| 総合計 | 682,452 | 282,504 | 127,537 | 177,452 | 38,765 | 28,181 | 11,307 | 13,953 | 2,753 |

■ 東京都市大学 競争的研究資金および研究助成(2014年度)

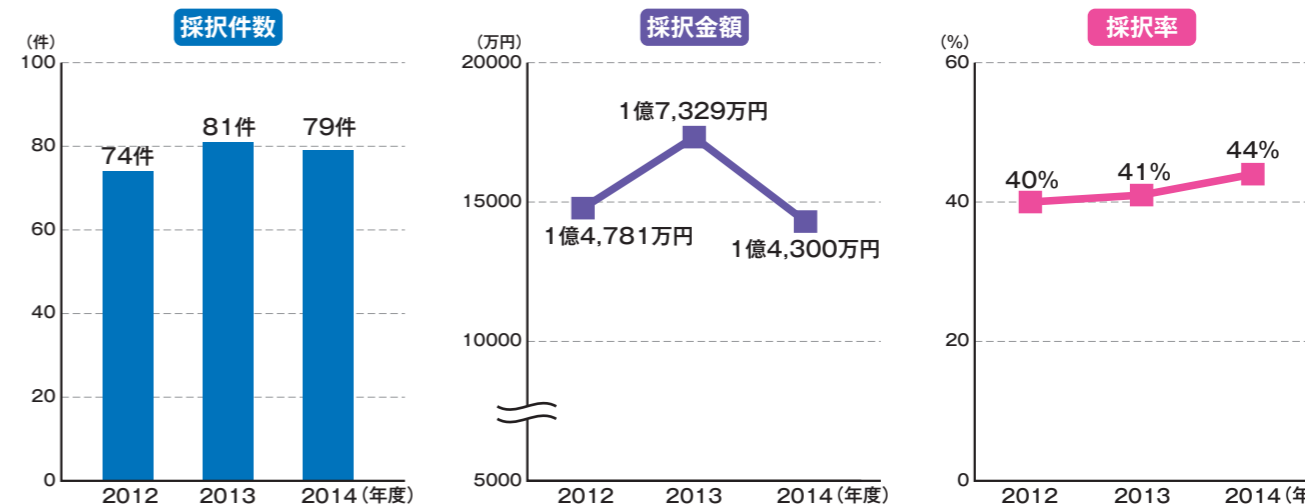
(単位:千円)

| 事業名・助成金名など | 担当官庁ほか | 所属 | 氏名 | 受入額 |
|--------------------------------|--------------|----------------|------|--------|
| 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) | 内閣府 | 工学部機械工学科 | 三原雄司 | 14,202 |
| 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) | 内閣府 | 工学部機械工学科 | 三原雄司 | 74,156 |
| 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) | 内閣府 | 工学部機械工学科 | 三原雄司 | 38,973 |
| 光・量子融合連携研究開発プログラム(再委託) | 文科省 | 工学部原子力安全工学科 | 持木幸一 | 8,099 |
| 光・量子融合連携研究開発プログラム(再委託) | 文科省 | 工学部原子力安全工学科 | 持木幸一 | 1,440 |
| 原子力システム研究開発事業(安全基盤技術研究開発)(再委託) | 文科省 | 工学部原子力安全工学科 | 持木幸一 | 1,931 |
| 原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ | 文科省 | 工学部原子力安全工学科 | 村松 健 | 34,216 |
| 廃止措置等基盤研究・人材育成プログラム(再委託) | 文科省 | 工学部原子力安全工学科 | 高木直行 | 539 |
| 高性能汎用計算機高度利用事業(再委託) | 文科省 | 工学部機械システム工学科 | 郡 逸平 | 2,500 |
| 建設技術研究開発費補助金 | 国土省 | 工学部建築学科 | 西村 功 | 3,250 |
| 建設技術研究開発費補助金 | 国土省 | 工学部都市工学科 | 白旗弘実 | 18,460 |
| 建築基準整備促進事業(再委託) | 国土省 | 工学部建築学科 | 佐藤幸恵 | 500 |
| 建築基準整備促進事業(再委託) | 国土省 | 工学部建築学科 | 佐藤幸恵 | 5,000 |
| 環境研究総合推進費(再委託) | 環境省 | 環境学部環境創生学科 | 大西暁生 | 6,154 |
| 戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) | 総務省 | 総合研究所 | 丸泉琢也 | 18,356 |
| 原子力施設等防災対策等委託費事業(再委託) | 原子力規制庁 | 工学部都市工学科 | 吉田郁政 | 1,944 |
| 高経年化技術評価高度化事業(再委託) | 原子力規制庁 | 工学部機械システム工学科 | 田中康寛 | 18,920 |
| 先導的産業技術創出事業 | NEDO | 工学部エネルギー化学科 | 金澤昭彦 | 11,715 |
| 研究成果最適展開支援事業(A-STEP) | JST | 共通教育部 | 須藤誠一 | 1,700 |
| 社会技術研究開発 | JST | 環境学部環境マネジメント学科 | 伊坪徳宏 | 18,486 |
| 社会技術研究開発 | JST | 工学部建築学科 | 大橋好光 | 7,935 |
| 二国間交流事業 共同研究・セミナー | 日本学術振興会 | 工学部機械システム工学科 | 三宅弘晃 | 1,000 |
| 論文博士号取得希望者に対する支援事業 | 日本学術振興会 | 環境学部環境創生学科 | 宿谷昌則 | 1,200 |
| 草の根技術協力事業 | JICA横浜国際センター | 環境学部環境創生学科 | 史 中超 | 4,628 |
| 加速器科学総合支援事業(大学等連携支援事業) | KEK | 工学部原子力研究所 | 三橋偉司 | 800 |

| | | | |
|-------------------------------|--------------|--------|-------|
| 研究助成(公益財団法人日揮・実吉奨学会) | 工学部機械工学科 | 亀山雄高 | 2,000 |
| 一般共同研究(東北大学流体科学研究所) | 工学部機械システム工学科 | 渡邊力夫 | 394 |
| 研究補助(公益財団法人JKA) | 工学部機械システム工学科 | 土方 規実雄 | 4,758 |
| 一般共同研究(情報・システム研究機構国立極地研究所) | 工学部医工学科 | 京相雅樹 | 600 |
| 共同研究(北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター) | 工学部エネルギー化学科 | 宗像文男 | 300 |
| 研究開発・調査助成(公益財団法人八洲環境技術振興財団) | 工学部エネルギー化学科 | 江場宏美 | 1,000 |
| 研究助成(2カ年)(一般財団法人日本建設情報総合センター) | 工学部都市工学科 | 皆川 勝 | 2,400 |
| 科学技術調査研究助成(財団法人新技術振興渡辺記念会) | | 宮林正恭 | 700 |

| 文部科学省科学研究費助成事業(科研費)・研究種目 | 件数 | 受入額 |
|--------------------------|----|---------|
| 新学術領域研究 | 1 | 14,820 |
| 基盤研究(A) | 1 | 5,460 |
| 基盤研究(B) | 7 | 28,080 |
| 基盤研究(C) | 50 | 67,730 |
| 挑戦的萌芽研究 | 11 | 13,260 |
| 若手研究(B) | 8 | 12,480 |
| 特別研究奨励費 | 1 | 1,170 |
| | 79 | 143,000 |

■ 文部科学省科学研究費補助金(科研費)の推移



2015年度の事業計画

教育を取り巻く環境はさらに厳しさを増し、変化は加速しています。教育・研究の質の向上と高度化、グローバル人材の育成等が我が国の喫緊の課題として産業界からも強い要請がなされており、文部科学省からは、「大学改革実行プラン」、「学校教育法改正」、「高大接続改革実行プラン」および「入試制度改革」等が発表され、従来にない改革が求められています。

このような社会環境の中、本法人は、新たな教育環境の整備、教育内容の充実と経営基盤の安定に取り組み、理念に基づく有為な人材を育成すべく、2015年度事業計画を策定しました。

【中長期計画（東京都市大学アクションプラン2030）の進捗】

東京都市大学は、創立90周年、100周年という中長期的視点から、2030年のあるべき姿＝ヴィジョンを掲げ、ヴィジョン達成に向けた中長期計画（アクションプラン2030）を2014年3月に策定しました。

2015年度は、(1)教育の質保証、(2)キャンパス教育環境向上、(3)ブランド力向上、(4)大学運営向上の4つのプロジェクト毎に策定した事業計画を、PDCAサイクルの手法によりスピード感をもって実行するとともに、柔軟に推進するための体制を整備します。

(1)教育の質保証

2015年度の入学生からスタートとなる「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」は、グローバル人材育成のコアとなる取り組みであるため、支援体制の整備・充実、提携大学であるエディスコワン大学との緊密な連携を図るとともに、学生のニーズを把握し改善に繋げる等の方策を講じ、同プログラムを東京都市大学の特色として定着、進化させるべく注力します。

また、クォーター制の導入等、国際的に通用するカリキュラムを検討するとともに、主体的な学修を促すため、CAP制（履修登録科目の上限設定）と連動した授業外学修時間を十分に確保できる教育システムを検討・試行し、合わせてシラバスの充実を図ります。

(2)キャンパス教育環境向上

教育研究システム、ポータルサイトシステム、学生情報システムなど、教育・研究レベルの向上を図る情報設備を整備するため、中長期的なICT基盤作りのグランドデザイン計画を立案します。

(3)ブランド力向上

学部横断型の教育・研究および産官学・社会連携の推進を図るべく、二子玉川ライズ・オフィス内に、「東京都市大学二子玉川夢キャンパス」を新設するとともに、2010年に開設した「東京都市大学渋谷サテライトクラス」を増床し、拡張します。

また、前述のTAPを始めとする国際化戦略によるブランド力向上を目指します。

(4)大学運営向上

学校教育法の改正（2015年4月1日施行）により、大学運営における学長のリーダーシップ確立等、ガバナンス改革の促進と、教授会の役割を明確化することとなりました。

法改正の主旨に則り学則等関連規程を改正し、学長ガバナンスの確立と意思決定プロセスの明確化を図り、各施策を迅速に実行できる体制を整備します。

また、アクションプランの政策課題としても位置付けている事務組織や学内委員会制度を見直し、さらなる教職協働体制を整えます。

【教育研究】

東京都市大学では、上記の「アクションプラン2030」における教育の質保証プロジェクトで策定した事業計画を実行し、国際標準の大学への進化を目指します。また、大学院を含めた科目体系の見直しと開講科

目の精査や、学部と修士課程との連結プログラム等の導入を検討します。研究面では、重点的に推進する分野を、現在の研究力や実績、外部資金獲得の可能性等から選定し、外部資金の導入を積極的に推進するとともに、特別教授制度による先端研究等の導入、若手研究者の研究活動の活性化および研究運営に関する助言を与える研究アドバイザーによる支援等により、研究支援体制の確立を図ります。

付属中学校・高等学校では、中学3年次にアジア交流プログラムとしてマレーシアでの異文化体験プログラムを計画し、国際社会を理解するための教育を推進します。

等々力中学校・高等学校では、より国際的に活躍できる人材育成を目指した「グローバルリーダーズ留学プログラム」を立ち上げ、グローバルリーダーの育成を目指します。

塩尻高等学校では、フィリピン・セブ島での海外語学研修をはじめ、学外におけるイングリッシュキャンプや学内英会話講座を実施し、英語力の向上を図ります。

【募集・広報活動】

東京都市大学では、入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）と併せて、教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）と卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）に基づき実行します。

入学者の質の向上および大学が求める人材が確保できるよう、意欲・能力・適性等を評価できる入試や社会人向けの入試制度等を検討します。また、入試科目への各種資格（TOEIC[®]、TOEFL[®]および数学検定等）の得点化を検討します。

都市大グループ全体の学外広報については、グループの諸活動および諸情報を広く発信することにより、社会とより良い関係を築き、そのブランド価値のさらなる向上を図ります。

特に2015年度は、グローバル化戦略に対応した英語圏における知名度の向上と各学校通学圏における認知度向上および一貫したイメージの定着に重点を置きます。

学内広報においては、職員が共有すべき理念や目標、諸情報等を発信することにより、共通理解の促進を図り帰属意識を涵養します。

【学生等支援】

TAP参加学生全員に参加費用補助制度を設けるとともに、一般入試（前期）の結果に基づき、TAP参加費用を免除する奨学生制度を創設します。さらに、「五島育英会夢に翼を奨学金」として、留学中の顕著な活動が認められる学生や留学後の成績上位者に対して奨学金を支給し、参加学生の意欲向上を図ります。

付属各校の在校生についても、グローバル人材育成事業、社会的価値向上施策等を対象とした「夢に翼を奨学金」の支給により、魅力と特色ある教育活動の具現化策を積極的に推進します。

【人事】

(1)組織変更および職員配置

職員の機動的・効果的配置および時代に即した教育研究支援体制の充実を図ることを目的として、大学事務組織の変更を検討・実施します。

教育職員においては、現在、各設置学校が推進している学校改革に対応できる教員体制の整備による人員増を見込んでいます。

特に東京都市大学においては、アクションプラン2030による教育の質の保証・向上を推進する教育体制の充実、総合研究所の研究活動の充実等による人員増を見込んでいます。

(2)人材育成

事務職員においては、現在、都市大グループ全体の取り組みとして、

グローバル化に対応する人材育成を目指し、CS・SD活動の充実に取り組んでいますが、2015年度は語学スキルの向上を目的とした自己啓発支援の拡充・環境整備に努め、個々の職員への意識改革を喚起し、自己変革を求める風土を醸成します。

高等学校から幼稚園の教育職員に対しては、個々の職員の授業力・指導力等、資質向上に向けた体系的な階層別研修を実践し、個々の教育スキルのさらなる向上に取り組めます。

【財務】

事業活動収入は192億6900万円を見込んでいます。一方、事業活動支出は、東京都市大学におけるアクションプラン2030に係る費用を含め、185億3000万円としました。

教育環境の充実を図るために、施設投資を行ったことにより、基本金組入後の当年度収支差額は9億3600万円の支出超過となる予算です。

【施設・設備】

主な施設・設備計画については下記の通りです。

[1]改修工事等

東京都市大学

・世田谷キャンパスA地区水路付替に伴う東側敷地境整備工事

・世田谷キャンパス15号館外壁塗装工事

・世田谷キャンパス7号館解体準備工事

・世田谷キャンパス14号館LED照明化工事

・横浜キャンパス5号館（体育館）ソーラー給湯設備更新

・横浜キャンパス3号館（講義研究棟）壁面塗装工事

・横浜キャンパス1号館空調設備更新工事

・等々力キャンパス3号館外壁補修工事

・等々力キャンパス3号館地下1階学生用シャワー室設置工事

[2]土地の買収

東京都市大学

・世田谷キャンパス敷地内借用国有地の購入

各種奨学制度

五島育英会では、本法人における各種奨学制度と、ご父母保証人、卒業生、企業などの皆様のご理解とご協力による各種寄付を活用し、学生・生徒の学びと成長を支援しています。

【奨学金制度】

| 奨学金名 | 2014年度採用実績 | 奨学金名 | 2014年度採用実績 |
|------------------|------------|--------------------|------------|
| 五島育英基金 | 148件 | 五島育英会曾祐奨学基金 | 4件 |
| 武蔵育英基金 | 40件 | 山田奨学基金 | 16件 |
| 蔵田奨学基金 | 1件 | 今泉奨学基金 | 6件 |
| 東京都市大学黒澤敦・淑子奨学基金 | 5件 | 東京都市大学佐野利秋国際交流奨学基金 | 4件 |
| 桐華奨学基金 | 4件 | 峰奨学基金 | 1件 |
| 小島奨学基金 | 9件 | | |

※本奨学基金は五島育英基金へ統合しました
奨学金の概要は五島育英会ホームページをご覧ください <http://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/scholarship.html>

【その他の支援制度】

本法人では、現在のような経済状況が不安定な中であっても、学生・生徒の皆さんが学修の機会を失わず、希望を持って未来に挑戦できるよう応援してまいります。詳しくは、都市大グループ各学様までお問い合わせください。
・小学生から大学院生までの家計急変に対する在学生への緊急支援
・地震等災害における学費等減免

[3]設備関係

法人本部

・人事情報管理システム構築

東京都市大学等々力中学校・高等学校

・電子黒板購入

【学校間連携】

幼児教育を学ぶ東京都市大学人間科学部の学生が、学生サポーター（ボランティア）として二子幼稚園において、イベント等のサポートや運営等を学ぶ実習型連携を「幼大連携」として展開していますが、この内、近隣の農地を利用した食育活動については、2015年4月にオープンした「二子玉川ライズ内菜園広場」に拠点を移し実行します。

また、大学と付属高校との連携による進学制度の内容充実と円滑な実施を図ります。

その他、高大連携、学校間連携を引き続き実施するとともに、自校教育をさらに発展させ、都市大グループの結束、総合力の強化および発展向上を図ります。

【内部監査】

2015年度内部監査計画に基づき、監事、会計監査人との連携を強化し、会計監査、業務監査を実施します。

【収益事業】

(1)不動産賃貸

・五島育英会ビル

空室が解消し満室稼働となりましたが、運営態勢の検証を継続的にを行い、快適環境の整備を図ります。また、震災対策を見直し、より安全で安心なビルを目指します。

(2)東急自動車学校

大型車教習・高齢者講習の充実および送迎バスルートを新設するとともに、業務効率化を一層進め、経常収支の黒字を恒常化します。



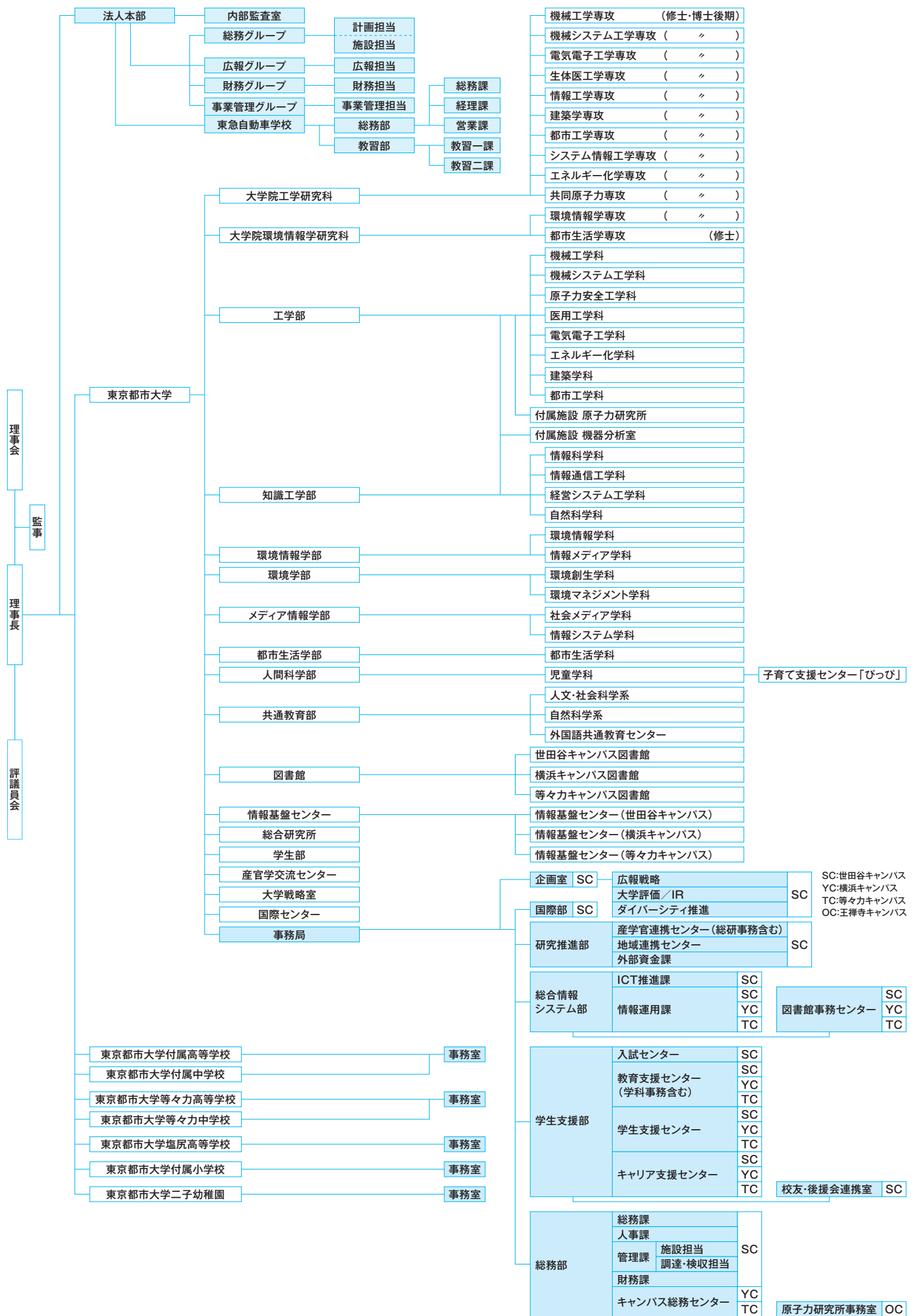
五島育英基金教育研究奨励事業として実施された「五島慶太郎生家の実測、復元模型制作プロジェクト」。復元模型は東京都市大学世田谷キャンパスの歴史展示コーナーに設置しています

【教育ローンについて】

本法人では、金融機関との提携による「学校法人五島育英会教育ローン」制度を設けております。本制度は銀行や信販会社など指定金融機関から学納金の融資を受けられるもので、経済的理由により就学が困難となった学生・生徒・児童に対する負担軽減を目的としています。

組織図

□ 教学組織 □ 事務組織



SC:世田谷キャンパス
YC:横浜キャンパス
TC:等々力キャンパス
OC:王禅寺キャンパス

役員・評議員一覧

(2015年7月1日現在)理事、監事、評議員の任期:2015年5月27日～2018年5月26日

■理事(14名)

| | |
|--------|-------------------------------|
| 安達 功 | 理事長 |
| 廣江 秀夫 | 専務理事 |
| 橋本 昌彦 | 常務理事 |
| 三木 千壽 | 東京都市大学学長 |
| 山口 裕啓 | 学校法人五島育英会前理事長 |
| 今村 俊夫 | 東京急行電鉄株式会社取締役副社長 |
| 上條 清文 | 学校法人亜細亜学園理事長 東京急行電鉄株式会社相談役 |
| 越村 敏昭 | 東京急行電鉄株式会社取締役相談役 |
| 湯本 雅恵 | 東京都市大学副学長 |
| 鈴木 照海 | 法人本部総務グループ担当理事 |
| 上倉 信介 | 東京都市大学事務局長 |
| 金指 潔 | 東急不動産ホールディングス株式会社取締役会長 |
| 吉田 勝 | 東京都市大学校友会会長 |
| 川辺 加代子 | 東京都市大学校友会副会長 |

■監事(2名)

| | |
|-------|-----------------|
| 吉田 創 | 東京急行電鉄株式会社常勤監査役 |
| 松下 正勝 | 東京都市大学校友会前会長 |

■評議員(31名)

| | |
|--------|--------------------------------|
| 三木 千壽 | 東京都市大学学長 |
| 小野 正人 | 東京都市大学附属中学校・高等学校校長 |
| 原田 豊 | 東京都市大学等々力中学校・高等学校校長 |
| 赤羽 利文 | 東京都市大学塩尻高等学校校長 |
| 重永 睦夫 | 東京都市大学附属小学校校長 東京都市大学二子幼稚園園長 |
| 大上 浩 | 東京都市大学工学部長 |
| 田口 亮 | 東京都市大学知識工学部長 |
| 佐野 雅子 | 東京都市大学メディア情報学部長・環境情報学部長 |
| 川口 和英 | 東京都市大学都市生活学部長 |
| 白石 明 | 東急自動車学校校長 |
| 鈴木 照海 | 法人本部総務グループ担当理事 |
| 小山 欽也 | 副理事・法人本部財務グループ財務担当部長 |
| 片岡 昭博 | 副理事・東京都市大学事務局国際部長 |
| 小久保 善生 | 副理事・東京都市大学事務局総務部長 |
| 吉田 勝 | 東京都市大学校友会会長 |
| 松村 慶一 | 東京都市大学校友会副会長 |
| 原口 兼正 | 東京都市大学校友会副会長 |
| 川辺 加代子 | 東京都市大学校友会副会長 |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 石田 彌 | 東京都市大学校友会常任幹事 |
| 安達 功 | 理事長 |
| 山口 裕啓 | 学校法人五島育英会前理事長 |
| 野本 弘文 | 東京急行電鉄株式会社取締役社長 |
| 今村 俊夫 | 東京急行電鉄株式会社取締役副社長 |
| 上條 清文 | 学校法人亜細亜学園理事長 東京急行電鉄株式会社相談役 |
| 金指 潔 | 東急不動産ホールディングス株式会社取締役会長 |
| 國分 榮 | 学校法人五島育英会顧問 |
| 廣江 秀夫 | 専務理事 |
| 湯本 雅恵 | 東京都市大学副学長 |
| 橋本 昌彦 | 常務理事 |
| 天沼 基 | 学校法人亜細亜学園専務理事 |
| 片田 敏行 | 東京都市大学前副学長 |

東急グループについて



東急グループが地元の方々とともに推進してきた再開発事業「二子玉川ライズ」が2015年にグランドオープン。6月1日には東京都市大学の新しいキャンパスも誕生し、知的創造の場が広がっています

東急グループは、1922年の「目黒蒲田電鉄株式会社」設立に始まり、2015年3月末現在、東京急行電鉄を中核企業とした220社8法人で構成する企業グループです。交通事業を基盤とした「街づくり」を事業の根幹に置き、不動産、生活サービス、ホテル・リゾート、ビジネスサポートなど、長年にわたって、皆様の日々の生活に密着した様々な分野で事業を進めています。

「美しい時代へ」をスローガンに、人々

の多様な価値観に対応した「美しい生活環境の創造」をグループ理念として掲げ、各社の「自立」を前提に、互いに連携しあい、相乗効果を生み出す「共創」を推進し、信頼され愛される東急ブランドの確立を目指しています。

また、学校法人・財団の活動、全国で展開している東急会の活動などを通して、地域社会に根ざした社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

東京都市大学と東急グループの連携

都市大グループの中核である東京都市大学では、東急グループとの様々な連携プロジェクトを推進しており、工学部建築学科の研究室と東急プラザ表参道原宿が、2014年10月3日から9日まで、ハロウィンをモチーフとした環境体験空間イベントを開催。次世代の都市事業に向けた技術を推進するため、株式会社東急不動産次世代技術センターと連携した取り組みの初めての事例となりました。

東京都市大学のキャリア支援プログラムの一つ「東急グループインターンシップ」は、グループ企業の17社に59名が就業体験を実施。11月14日には成果発表会が行われ、自らの体験を振り返ることで、今後のキャリアにどのように活かすかを考える機会となりました。



ハロウィンをモチーフとした「環境体験装置」により、日常的には意識しにくい自然環境のわずかな変化を体感できます



東急グループインターンシップ成果発表会の様子。熱心な質疑応答が交わされました

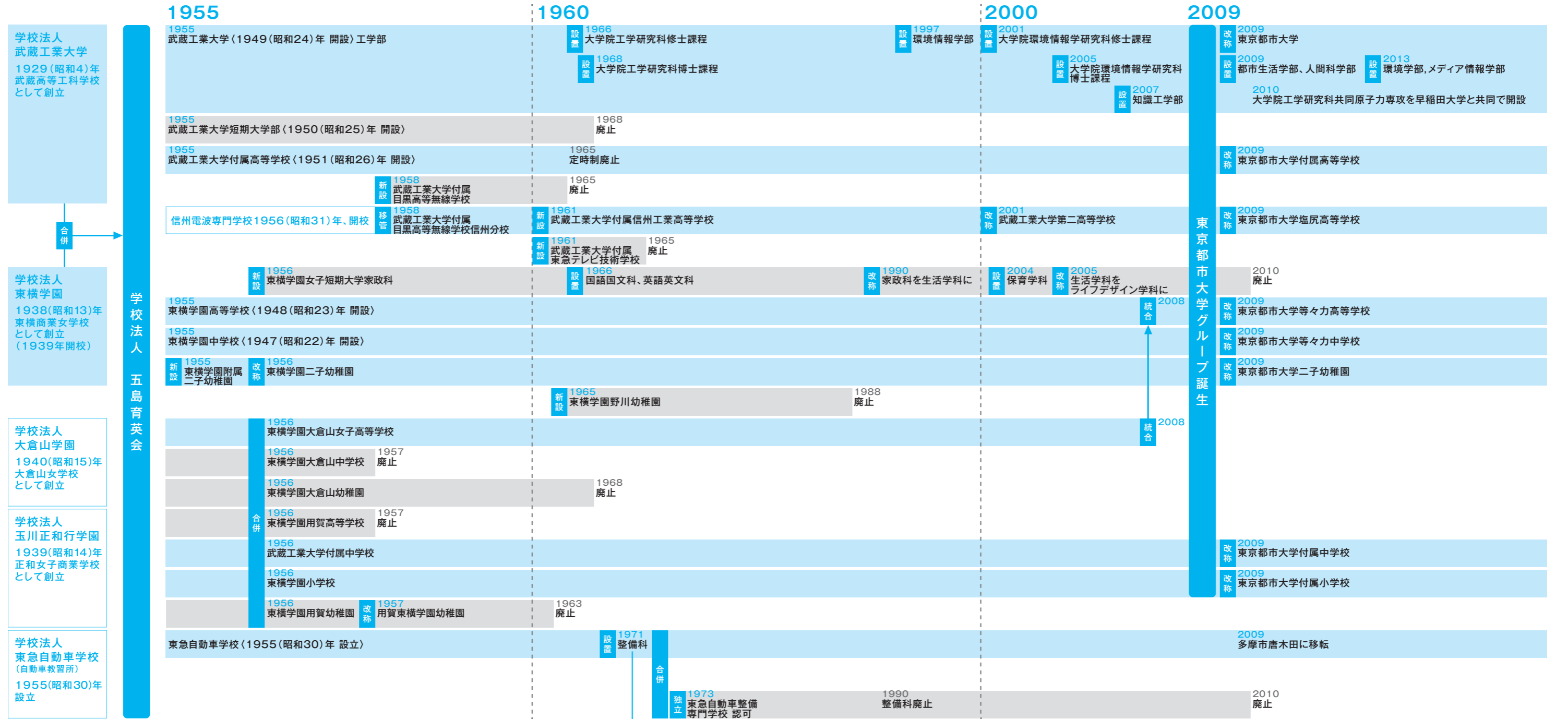
学校法人五島育英会の概要

学校法人五島育英会のあゆみ

本法人は、東急グループの礎を築いた五島慶太初代理事長が、1938年、「女子の実践的教育普及」を目的に創立した東横商業女学校に端を発します。その後、学校法人東横学園設立（1951年）を経て、1955年6月に、学校法人武蔵工業大学と学校法人東横学園が統合して学校法人五島育英会となりました。当時の設置校は、武蔵工業大学、同短期大学部、同付属高等学校、東横学園高等学校、同中学校の5校でした。

以来、幾多の変遷を経て、2009年4月、設置する大学1校、高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園に「東京都市大学」の名称を冠し、「東京都市大学グループ」を形成しました。

東京都市大学の歴史については、2015年1月に世田谷キャンパス五島記念館（3号館）1階のエントランスホールに開設した「歴史展示コーナー」で詳しくご覧いただけます。また、工学部建築学科の研究室が長野県青木村の協力により調査し、精密に復元した五島先生の生家の模型が展示されています。



写真で見る東京都市大学 3キャンパスの変遷



事業活動

東急自動車学校

世田谷区二子玉川から多摩市唐木田に移転してきて5年目となりました。年間の入校者数は、移転当初は4,000名弱でしたが、知名度向上のための営業活動と、指導の質的向上に努めてきた効果などにより、2014年度は6,094名と着実に増加しています。都内に47校ある自動車学校の中で4位に位置しています。

集客活動としては、2014年度は上半期に「東日本復興プロジェクトキャンペーン」、下半期に「唐木田開校5周年お客様感謝キャンペーン」を展開しました。さらに、無料のスクールバスの路線について再編成と増便を実施し、お客様が利用しやすい環境の整備を進めました。

社会情勢への対応も進めています。70歳を超えて運転免許を更新される方の増加に対応し、「高齢者講習」を積極的に展開しています。受講者数は、2014年度は6,920名で、2013年度より1,631名増加しました。また、業務中の運転事故リスクの低減に注力する企業の増加に対応して、企業向け安全運転研修を拡充し、座学と実際のコー

ス走行による運転適性検査・運転技能チェックなどの研修を実施しています。研修実施企業は、2014年度は41社で、2013年度より10社増加しました。

地域社会への貢献活動にも継続して取り組んでいます。毎年春と秋の全国交通安全運動の期間中には、多摩中央警察署が主催する二輪車講習会の会場として本校を提供。さらに2014年11月29日、南大沢警察署主催の大学対抗二輪車安全運転競技会を本校の二輪コースで開催しました。

都市大グループとの連携も継続しています。2014年8月23日には、東京都市大学が主催する中学生と高校生対象の手作り電気自動車コンテスト「都市大エコ1チャレンジカップ2014」を本校で開催しました。本校を会場として使用するのは3回目になります。

今後も社会情勢の動向を見すえ、地域社会や都市大グループ内外の機関との連携に取り組んでまいります。



2009年12月から多摩市唐木田で事業を行っている東急自動車学校

■ホームページ

<http://www.109n.jp>
東急自動車学校
所在地:東京都多摩市唐木田3-6
TEL:042-372-0109



五島育英会ビル

五島育英会ビルは、東急東横線・田園都市線やJR線などが集まる渋谷駅から徒歩約5分という立地性に加えて都市型オフィスビルとしての快適性を備えています。

同ビル内には、東京都市大学と早稲田大学との共同大学院の教育・研究開発の拠点となる「東京都市大学 渋谷サテライトクラス」が設置されています。

【建物概要】

建物名称:五島育英会ビル
敷地面積:1,001.79㎡
構造:鉄骨鉄筋コンクリート造
地下3階地上8階塔屋1階
建物面積:899.27㎡
建物延面積:8,777.88㎡

賃貸オフィスに関するお問い合わせは、五島育英会 事業管理グループ (TEL:03-3464-6954)までお願いいたします。



五島育英会野川ビル

東急田園都市線沿線の閑静な住宅街にたたずむ地上5階建ての一括賃貸物件です。公園などが多い地域に立地し、周辺は2系統のバス路線が乗り入れるなど、快適性と利便性を備え、収益事業の一翼を担っています。

所在地:神奈川県川崎市宮前区野川3024-2
最寄駅:東急田園都市線「鷺沼」駅
建物構造:鉄筋コンクリート造、地上5階建



教育関連施設



【施設DATA】

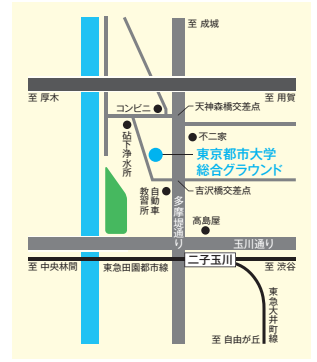
所在地：東京都世田谷区鎌田1-16-1

設備：野球場1面(両翼90m、中堅100m)、テニスコート4面、多目的グラウンド1面(テニスコート9面相当)、クラブハウス2棟

アクセス：東急大井町線・田園都市線二子玉川駅から徒歩約10分、「都市大総合グラウンド前」下車すぐ／成城学園前行きで約7分、「吉沢」下車徒歩5分

東京都市大学 総合グラウンド

総合グラウンドは、都市大グループを形成する大学から幼稚園までの学生・生徒・児童・園児たちが、健康と体力の増進をはじめ、様々な教育活動、学校生活の充実を図る場所として、2010年6月に開設しました。敷地面積は26,901㎡。各校の中間地点に位置しています。「グループ全体の総合力発揮」を体現する施設、取り組みの中心となるよう、施設設備の整備と充実を図り、信頼感と安心感ある学園づくりに取り組んでいきます。



【施設DATA】

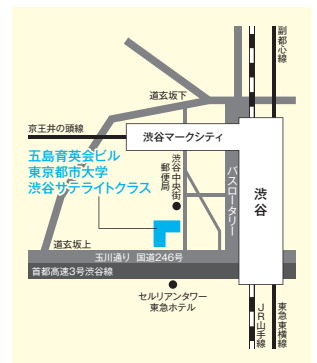
所在地：東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル地下1階

設備：教室(48名収容)、教員控室、受付、プロジェクター、プラズマディスプレイなど

アクセス：JR渋谷駅西口(南改札)から徒歩5分／京王井の頭線渋谷駅西口から徒歩2分

東京都市大学 渋谷サテライトクラス

2010年4月、東急各線をはじめ、JR各線、複数の地下鉄路線が乗り入れる渋谷に「東京都市大学渋谷サテライトクラス」が誕生しました。渋谷駅から徒歩5分という好立地にあり、東京都市大学と早稲田大学による共同大学院「共同原子力専攻」(2010年4月開設)の教育・研究開発の拠点として利用されています。周辺には宿泊施設も充実しており、企業・官公庁・大学、さらには世界各国からの技術者・研究者が来訪しやすい好環境となっています。



【施設DATA】

所在地：山梨県北杜市高根町清里3545-1

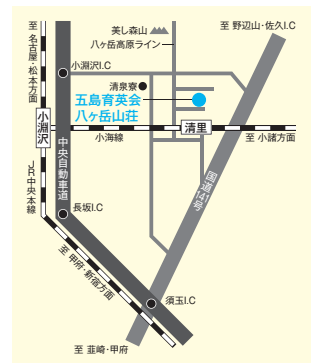
設備：宿泊室(和室14室:11室、8畳:1室)、ラウンジ、ダイニング、乾燥室・洗濯室、浴室、展望室など

アクセス：JR中央本線小淵沢駅から小海線清里駅下車、タクシーで約10分／(東京から)中央自動車道須玉I.Cから国道141号線

ホームページ：<https://www.goto-ikuei.ac.jp/yatsu>

五島育英会 ハケ岳山荘

ハケ岳山荘は、大自然の山懐に優しく包まれた清里高原にあります。都市大グループの学生・生徒および教職員などが、ゼミやクラブの宿舎、研修場所として利用することができるオールシーズン型の宿泊施設です。館内には12の和室があり、ラウンジや食堂、浴室、展望室のほか、体育館を併設しています。周辺エリアには、清里の森美術館やオルゴール博物館など著名な観光スポットがあり、良い環境のもと様々なことを学ぶことができます。



夢を応援する場所「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」オープン

2015年6月、二子玉川駅に隣接する「二子玉川ライズ」8階に、東京都市大学の新しいキャンパス「二子玉川夢キャンパス(略称:夢キャン)」がオープンしました。「夢キャン」では、教育研究活動をはじめ、子供たちへ科学の楽しさを伝えるためのイベントや、地域や産業界が抱える課題を解決するための活動を展開していきます。

【施設DATA】

所在地：東京都世田谷区玉川2-21-1二子玉川ライズ・オフィス8階

アクセス：東急大井町線・田園都市線二子玉川駅から徒歩1分

ホームページ：<http://yumecampus.tcu.ac.jp>



工学部建築学科の卒業生が携わった、二子玉川夢キャンパスの内装イメージ

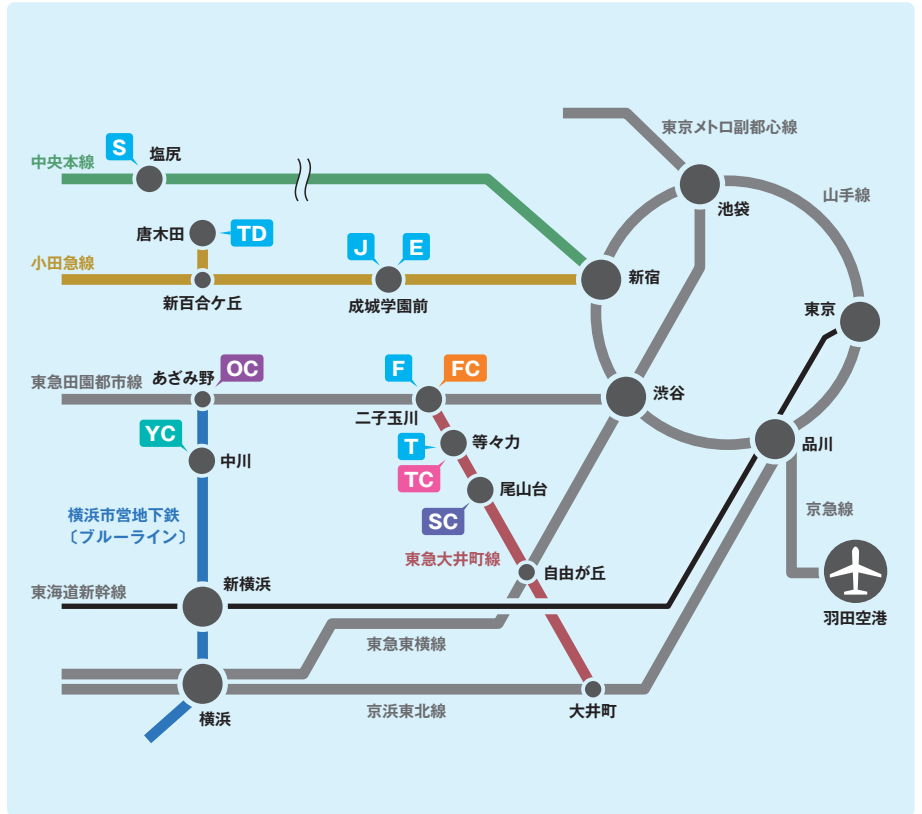


東京都市大学グループの誕生に伴い、共通したシンボルマークとロゴタイプを定めました。
シンボルマーク…略称“都市大”の「都市」の“T”を図案化したものです。
 サステナブルな明るい未来を見通す「窓」でもあり、
 そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」の象形でもあります。
 マークの色調(アイデンティティカラー“TCUブルー”)は、
 知性とサステナブルな明るい未来を意味しています。
ロゴタイプ…シンプルでカーブの効いたゴシックのタイプフェイスは、
 時代に柔軟で、若々しさのある学校であることを表現しています。

Access Map

東京都市大学

- SC** : 世田谷キャンパス
東急大井町線 尾山台駅より徒歩12分
 - YC** : 横浜キャンパス
横浜市営地下鉄(ブルーライン) 中川駅より徒歩5分
 - TC** : 等々力キャンパス
東急大井町線 等々力駅より徒歩10分
 - OC** : 王禅寺キャンパス
東急田園都市線・横浜市営地下鉄 あざみ野駅より路線バスで約15分
 - FC** : 二子玉川夢キャンパス
東急大井町線・田園都市線 二子玉川駅より徒歩1分
-
- J** : 東京都市大学 附属中学校・高等学校
小田急線 成城学園前駅より徒歩10分
 - T** : 東京都市大学 等々力中学校・高等学校
東急大井町線 等々力駅より徒歩10分
 - S** : 東京都市大学 塩尻高等学校
中央本線 塩尻駅より徒歩15分
 - E** : 東京都市大学 附属小学校
小田急線 成城学園前駅より徒歩10分
 - F** : 東京都市大学 二子幼稚園
東急大井町線・田園都市線 二子玉川駅より徒歩5分
-
- TD** : 東急自動車学校
小田急線 唐木田駅より徒歩15分



2014年度事業報告書 学校法人五島育英会

発行日:2015年7月
 発行者:学校法人五島育英会
 本報告書の対象範囲:学校法人五島育英会の大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、自動車学校
 本報告書の対象期間:2014年4月1日~2015年3月31日
 (一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています)

無断転載を禁止します。
 All Rights Reserved.
 Printed in Japan © Gotoh Educational Corporation

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル8F
 TEL:03-3464-6911(代表) FAX:03-3464-6650 URL <http://www.gotoh-ikuei.ac.jp>

詳しくはホームページへ

本誌に関するお問い合わせは、五島育英会 法人本部 広報グループ(TEL:03-3464-6916)までお願いいたします。